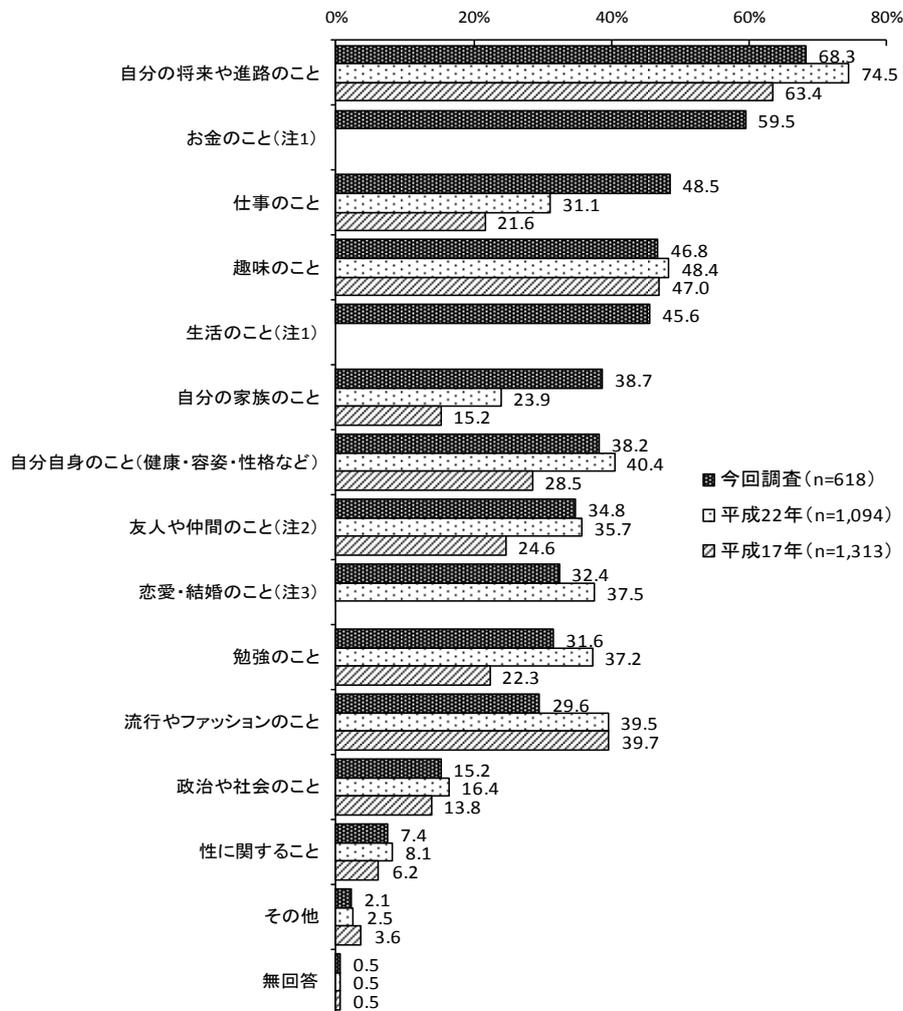


第2章 子ども・若者の意識

(1) 現在の関心事

問11 あなたが今、関心のあることは何ですか。(〇はいくつでも)



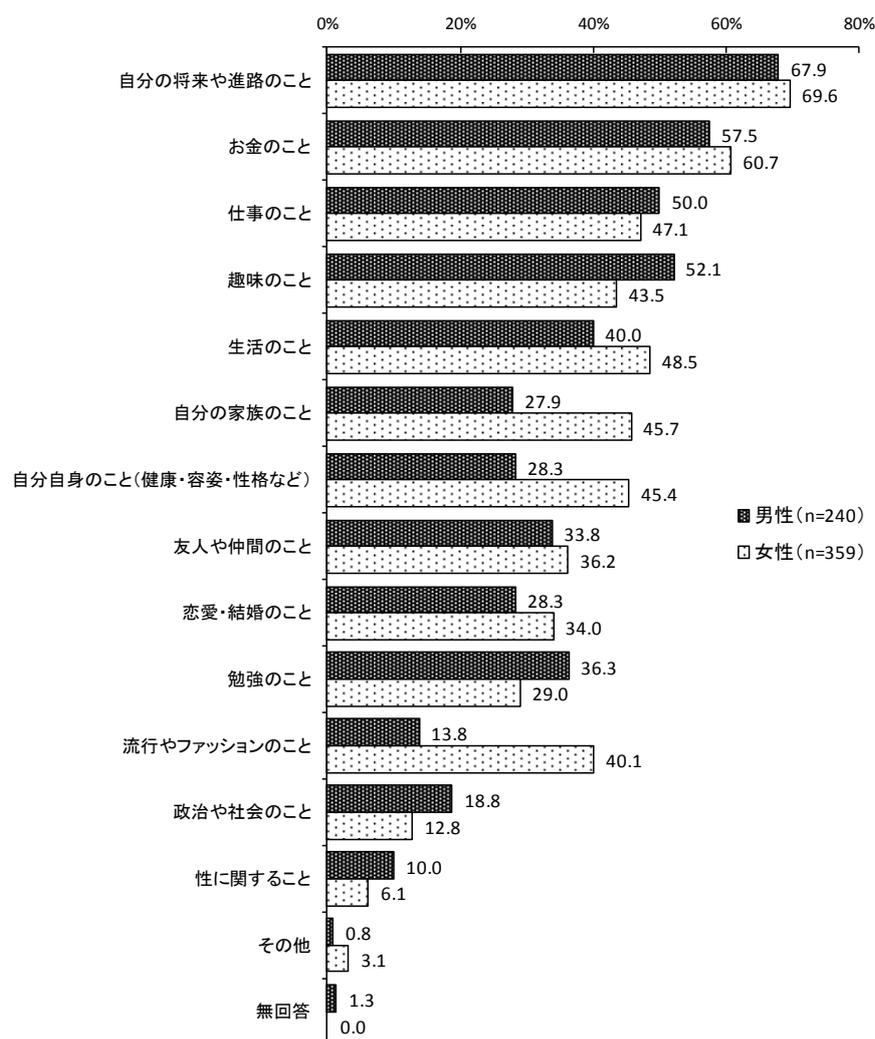
(注1) の項目は、今回調査から調査項目に加わったため、平成22年度調査、平成17年度調査は非調査

(注2) の項目は、平成22年度調査、平成17年度調査では「友人のこと」

(注3) の項目は、平成22年度調査から調査項目に加わったため、平成17年度調査は非調査

現在の関心事は、「自分の将来や進路のこと」の割合が68.3%で最も高く、以下、「お金のこと」(59.5%)、「仕事のこと」(48.5%)、「趣味のこと」(46.8%)、「生活のこと」(45.6%)、「自分の家族のこと」(38.7%)、「自分自身のこと(健康・容姿・性格など)」(38.2%)、「友人や仲間のこと」(34.8%)、「恋愛・結婚のこと」(32.4%)、「勉強のこと」31.6%、「流行やファッションのこと」(29.6%)の順となっている。

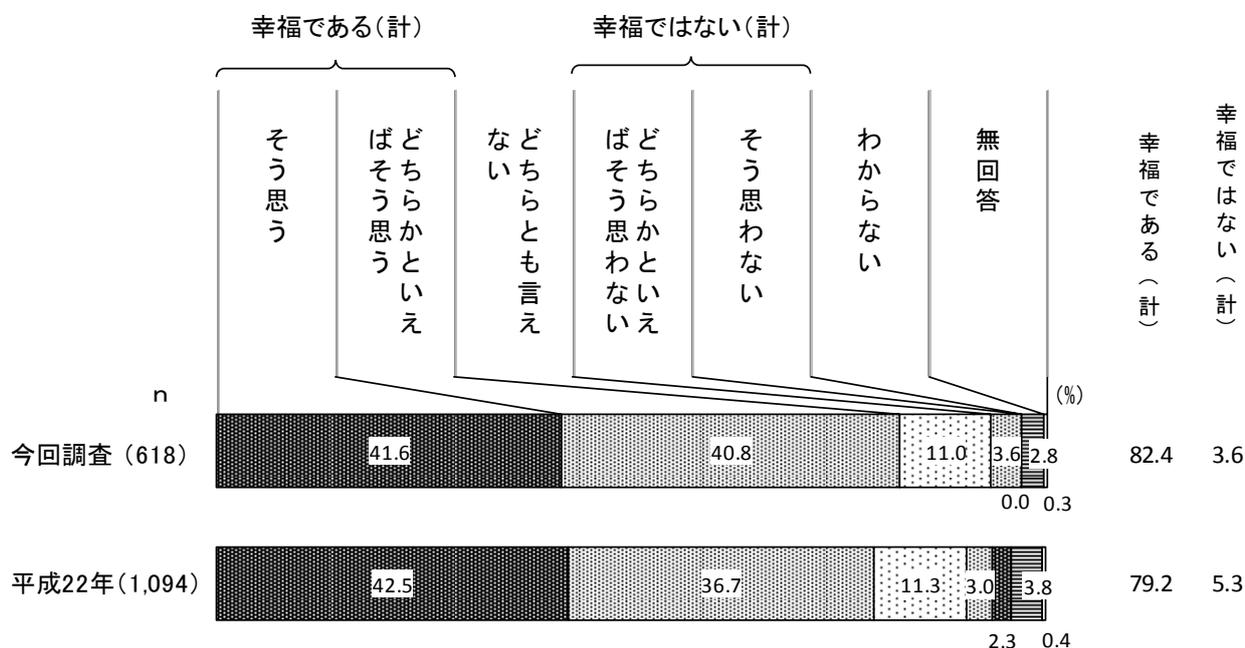
○現在の関心事（性別）



現在の関心事について、性別で見ると、【男性】では「仕事のこと」、「趣味のこと」、「勉強のこと」、「政治や社会のこと」、「性に関すること」の割合が【女性】より高く、一方、【女性】では上述以外の項目の割合が高くなっている。特に男女間で差異の大きい項目は、「流行やファッションのこと」、「自分の家族のこと」、「自分自身のこと（健康・容姿・性格など）」があげられ、いずれも【女性】の割合が高くなっている。

(2) 幸福感

問12 あなたは幸せですか。(〇は1つだけ)

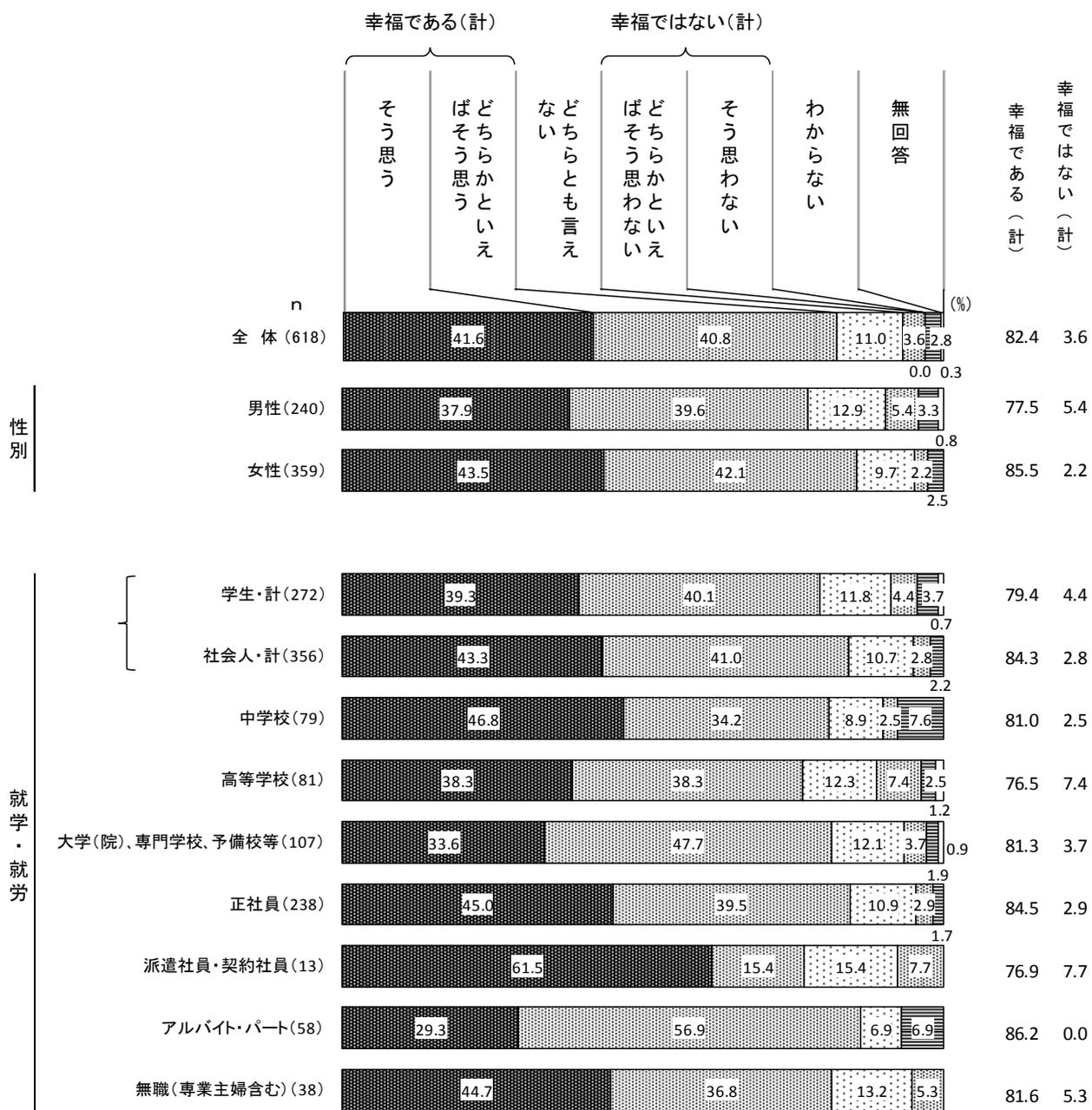


幸福感は、「そう思う」の割合が41.6%で最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」(40.8%)を合わせた『幸福である(計)』は82.4%と8割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(3.6%)と「そう思わない」(0.0%)を合わせた『幸福ではない(計)』は3.6%となっている。平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられないが、わずかに『幸福である(計)』が増加し、『幸福ではない(計)』が減少している。

性別でみると、『幸福である(計)』割合は、【女性】のほうが85.5%と高くなっている。

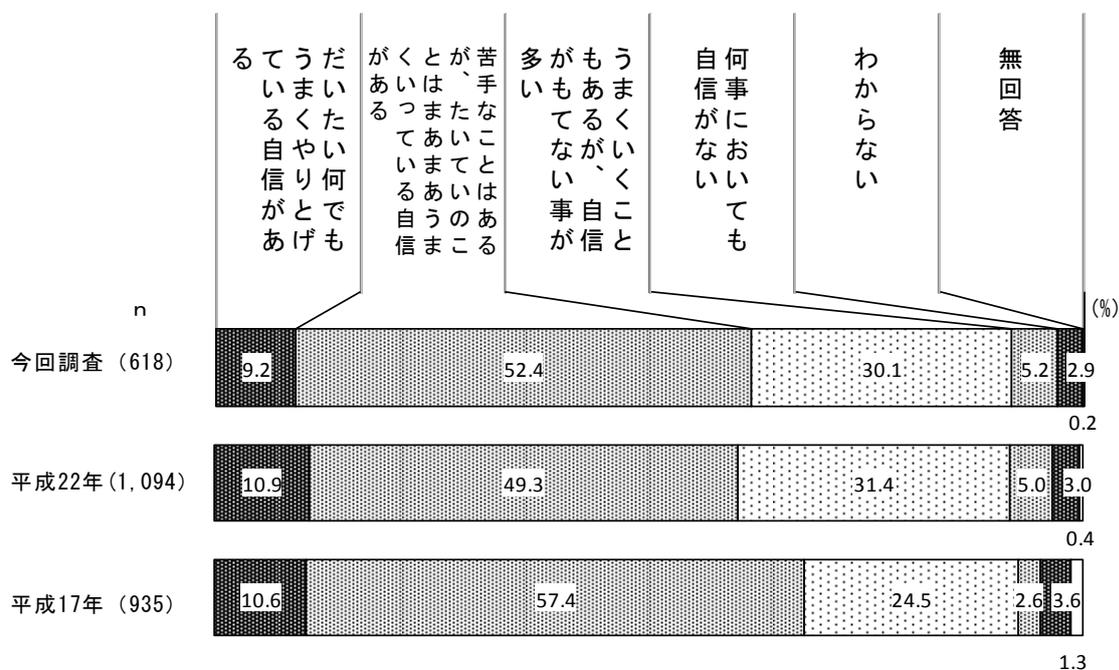
就学・就労別にみると、『幸福である(計)』割合は、【高等学校】で76.5%と他の属性と比べて若干低くなっている。

○幸福感（性別／就学・就労別）



(3) 自己肯定感

問 13 あなたは、ふだん自分が考えたり行動したりしていること（家族でのことや友達との関係、学校、会社のことなど）でふりかえてみると次のどれになると思いますか。（○は1つだけ）

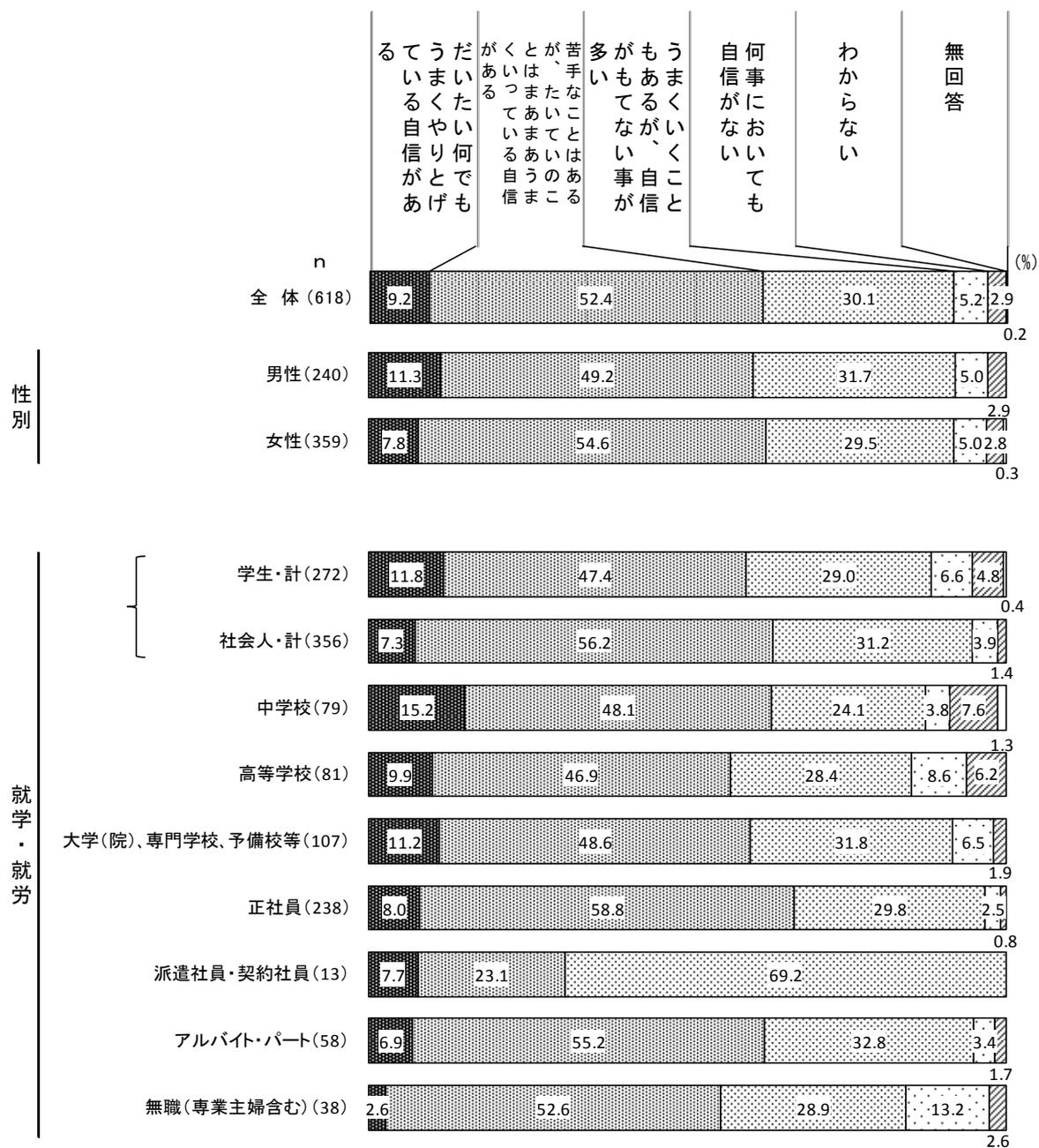


自己肯定感は、「苦手なことはあるが、たいていのことはまあまあうまくいっている自信がある」の割合が 52.4%で最も高く、「だいたい何でもうまくやりとげている」(9.2%)を合わせると、61.6%の方が『うまくいっている自信がある』と回答している。平成 22 年度調査と比較しても、大きな差異はみられなかった。

性別でも、男女間で大きな差異はみられなかった。

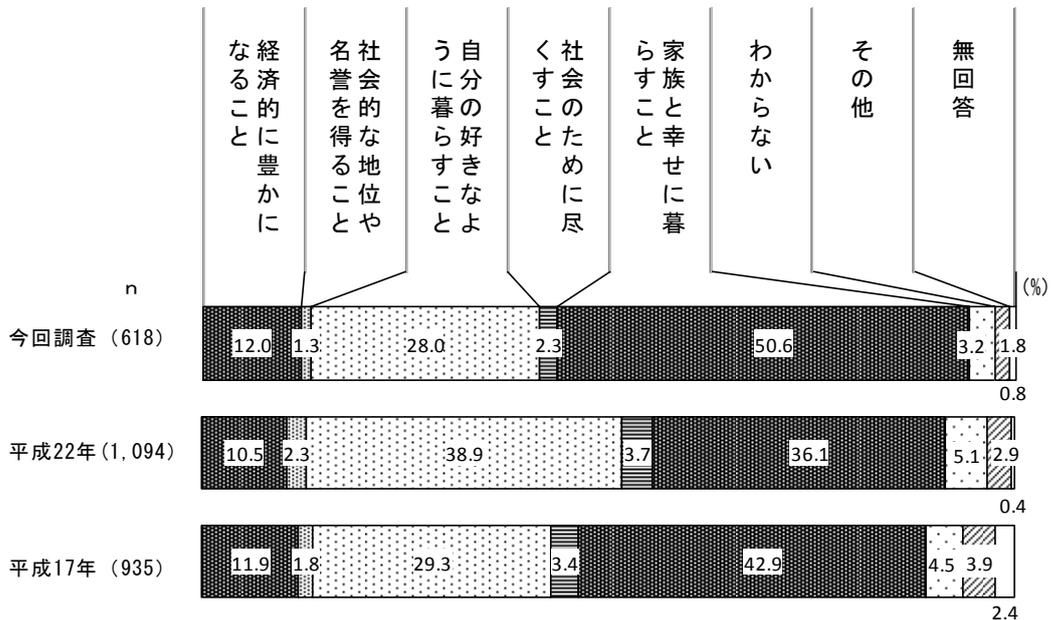
就学・就労別でみると、【無職（専業主婦含む）】では「だいたい何でもうまくやりとげている」の割合が 2.6%と、他の属性と比べて低くなっている。【正社員】では「苦手なことはあるが、たいていのことはまあまあうまくいっている自信がある」の割合が 58.8%、【派遣社員・契約社員】では、「うまくいくこともあるが、自信がもてないことが多い」の割合が 69.2%と、他の属性と比べて高くなっている。

○自己肯定感（性別／就学・就労別）



(4) 理想とする生き方

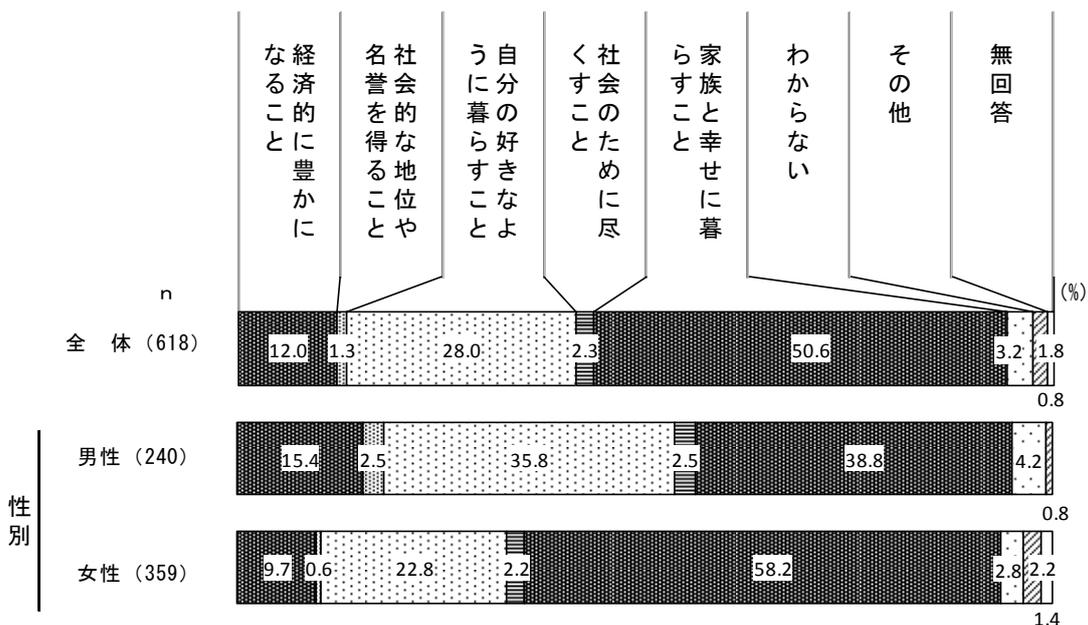
問14 あなたの理想とする生き方について、次の中であなたの考えにもっとも近いものは何ですか。(〇は1つだけ)



理想とする生き方は、「家族と幸せに暮らすこと」の割合が50.6%で最も高く、以下、「自分の好きなように暮らすこと」(28.0%)、「経済的に豊かになること」(12.0%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「家族と幸せに暮らすこと」が14.5ポイント増加し、「自分の好きなように暮らすこと」が10.9ポイント減少している。

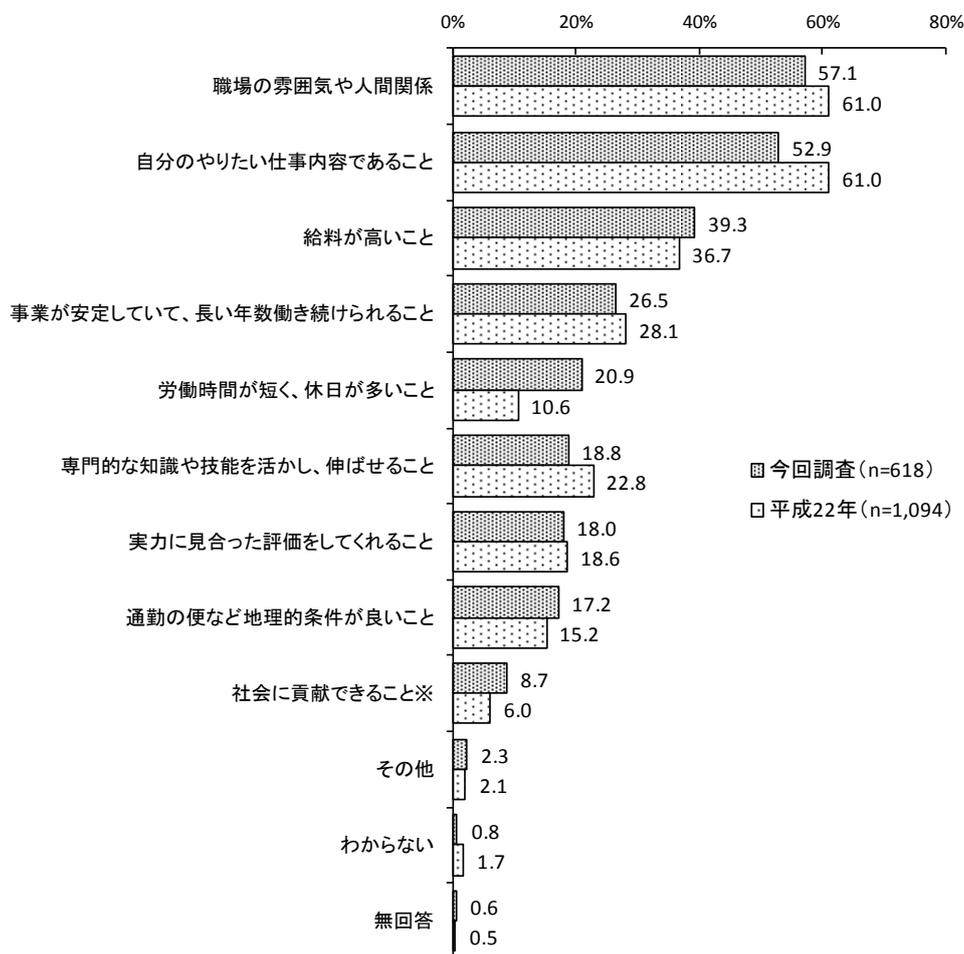
性別でみると、「家族と幸せに暮らすこと」は【女性】のほうが19.4ポイント高く、一方、「自分の好きなように暮らすこと」は【男性】のほうが13.0ポイント高くなっている。

○理想とする生き方(性別)



(5) 仕事を選ぶ際、重視すること

問15 仕事を選ぶ際に、主にどのようなことを重視しますか。(〇は3つまで)

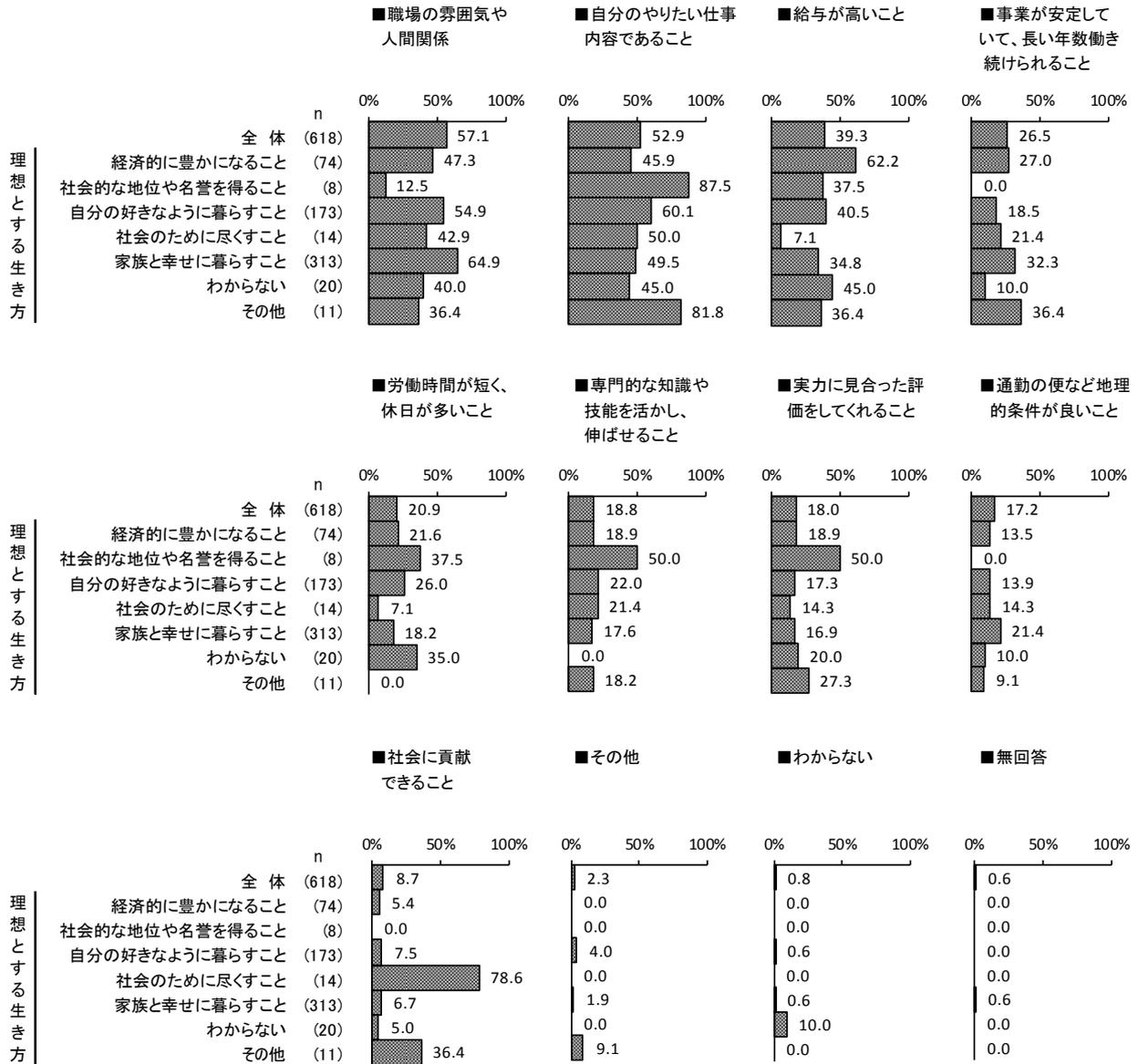


※の項目は、平成22年度調査では「仕事の社会的意義」

仕事を選ぶ際に重視することは、「職場の雰囲気や人間関係」の割合が57.1%で最も高く、以下、「自分のやりたい仕事内容であること」(52.9%)、「給料が高いこと」(39.3%)、「事業が安定していて、長い年数働き続けられること」(26.5%)、「労働時間が短く、休日が多いこと」(20.9%)、「専門的な知識や技能を活かし、伸ばせること」(18.8%)、「実力に見合った評価をしてくれること」(18.0%)、「通勤の便など地理的条件が良いこと」(17.2%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「自分のやりたい仕事内容であること」は8.1ポイント減少し、「労働時間が短く、休日が多いこと」は10.3ポイント増加している。

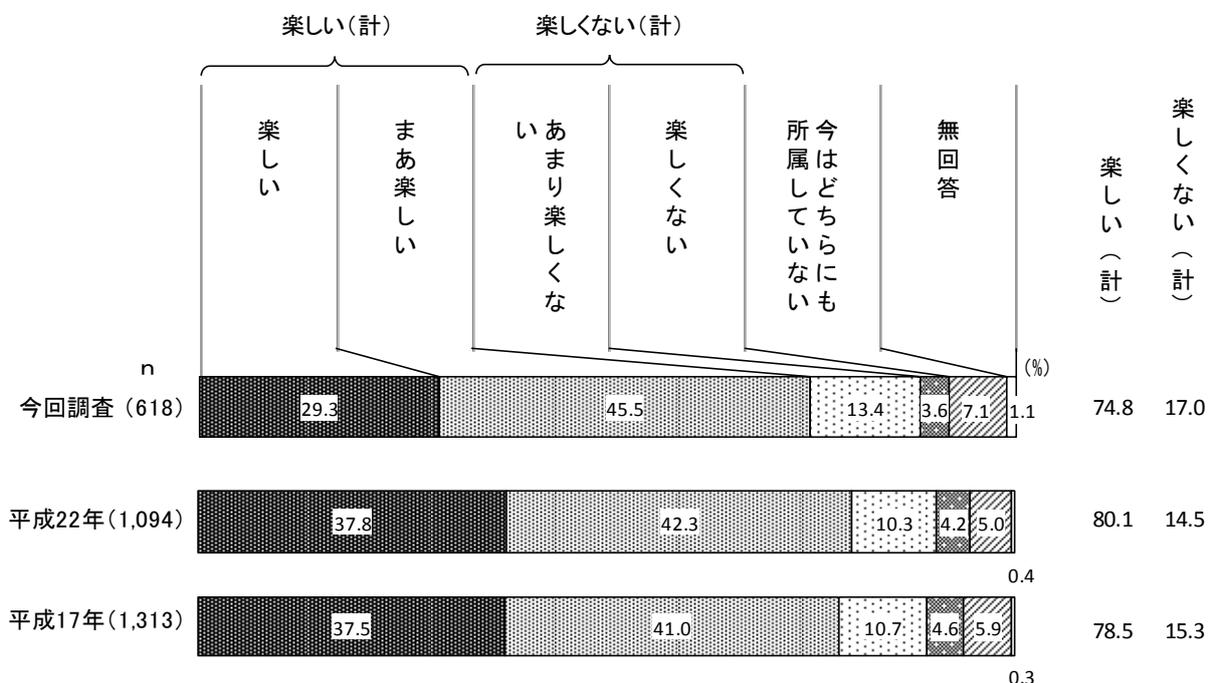
理想とする生き方別でみると、【経済的に豊かになること】と回答した方では「給与が高いこと」の割合が62.2%と、他の方と比べて高くなっている。また、【家族と幸せに暮らすこと】と回答した方では「職場の雰囲気や人間関係」の割合が64.9%と、他の方と比べて高くなっている。

○仕事を選ぶ際、重視すること（理想とする生き方（問14）別）



(6) 学校や職場の楽しさ

問16 学校や職場（アルバイト含む）は、あなたにとって楽しいところですか。
 （〇は1つだけ）



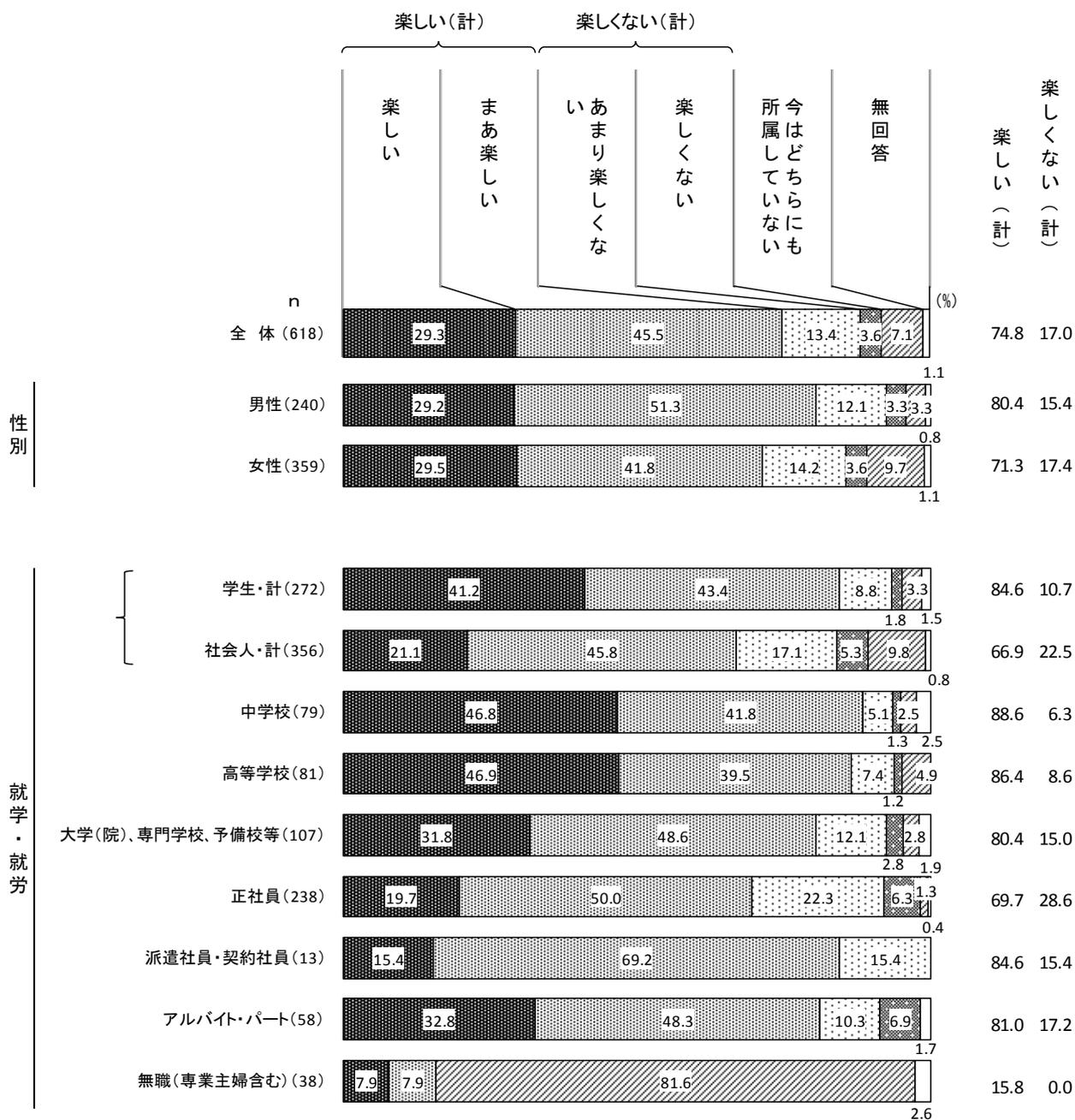
学校や職場の楽しさは、「まあ楽しい」の割合が45.5%で最も高く、「楽しい」(29.3%)を合わせた『楽しい(計)』は74.8%となっている。一方、「あまり楽しくない」(13.4%)と「楽しくない」(3.6%)を合わせた『楽しくない(計)』は17.0%となっている。平成22年度調査と比較すると、『楽しい(計)』が5.3ポイント減少し、『楽しくない(計)』が2.5ポイント増加している。

性別で見ると、『楽しい(計)』の割合が【男性】は80.4%、【女性】は71.3%と、【男性】のほうが高くなっている。

就学・就労別で見ると、『楽しい(計)』の割合が【学生・計】で84.6%と高くなっており、なかでも【中学校】では88.6%、【高等学校】では86.4%と、他と比べて高くなっている。一方、【正社員】では『楽しい(計)』の割合が69.7%と他と比べて低く、『楽しくない(計)』の割合が28.6%と高くなっている。

第2部 調査結果の詳細

○学校や職場の楽しさ（性別／就学・就労別）

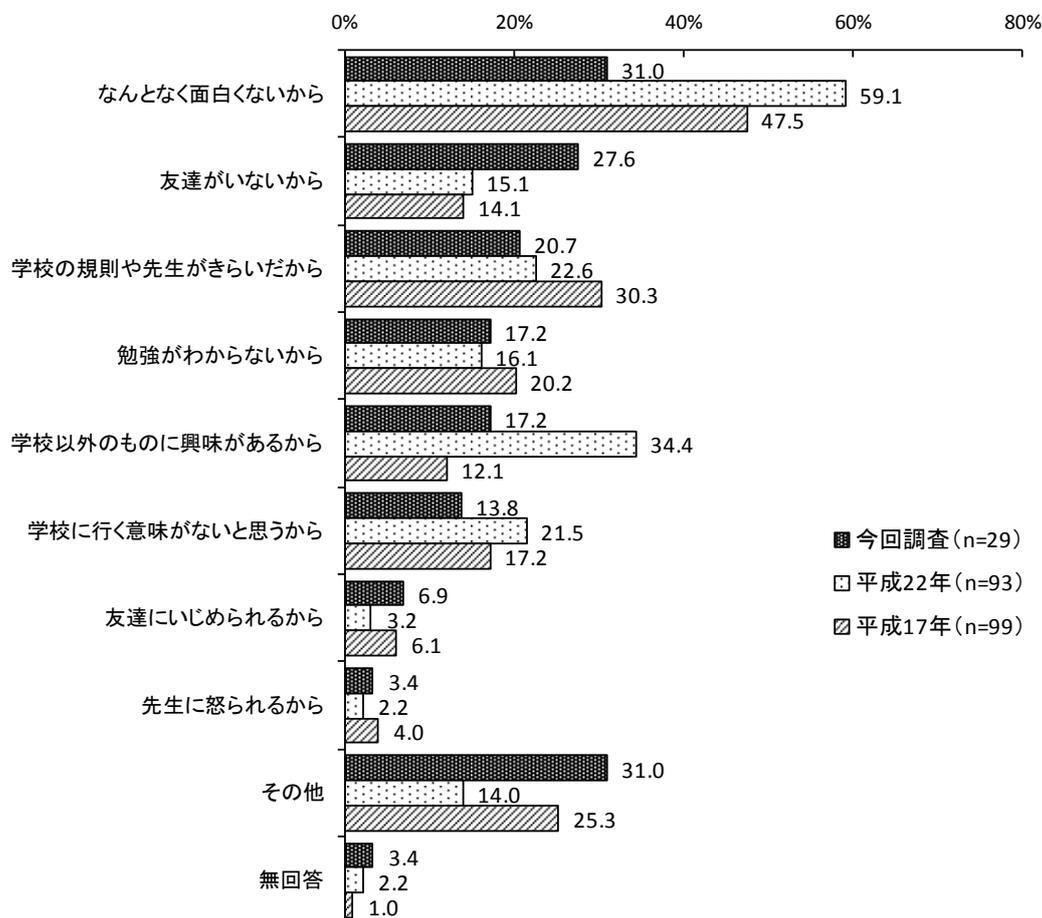


(7) 学校・職場が楽しくない理由

【問16で「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した方への質問】

問16① その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

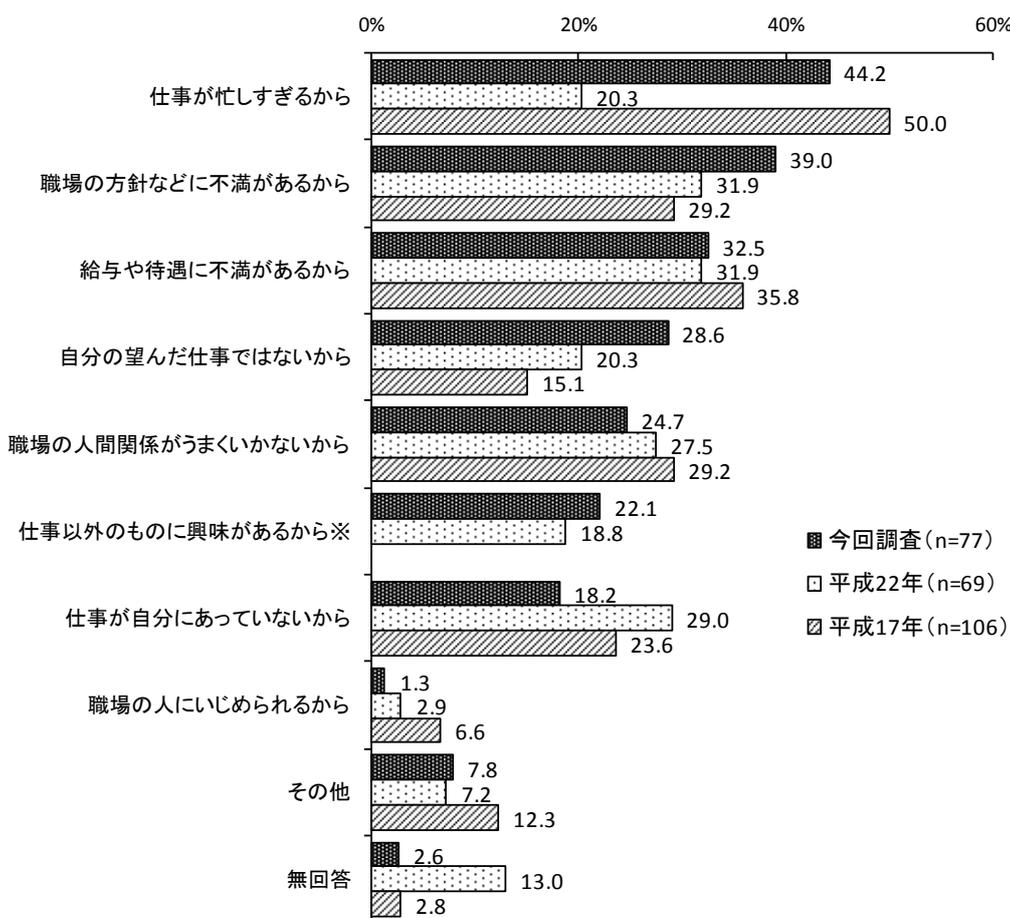
○学校



学校が楽しくない理由は、「なんとなく面白くないから」と「その他」の割合がともに31.0%で最も高く、以下、「友達がいないから」(27.6%)、「学校の規則や先生がきらいだから」(20.7%)、「勉強がわからないから」と「学校以外のものに興味があるから」が同率で17.2%、「学校に行く意味がないと思うから」(13.8%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「なんとなく面白くないから」が28.1ポイント、「学校以外のものに興味があるから」が17.2ポイント減少し、「友達がいないから」が12.5ポイント増加している。

その他の内容は、「友達がいない」「多忙」「学校の授業方法に疑問がある」などが挙げられた。

○職場

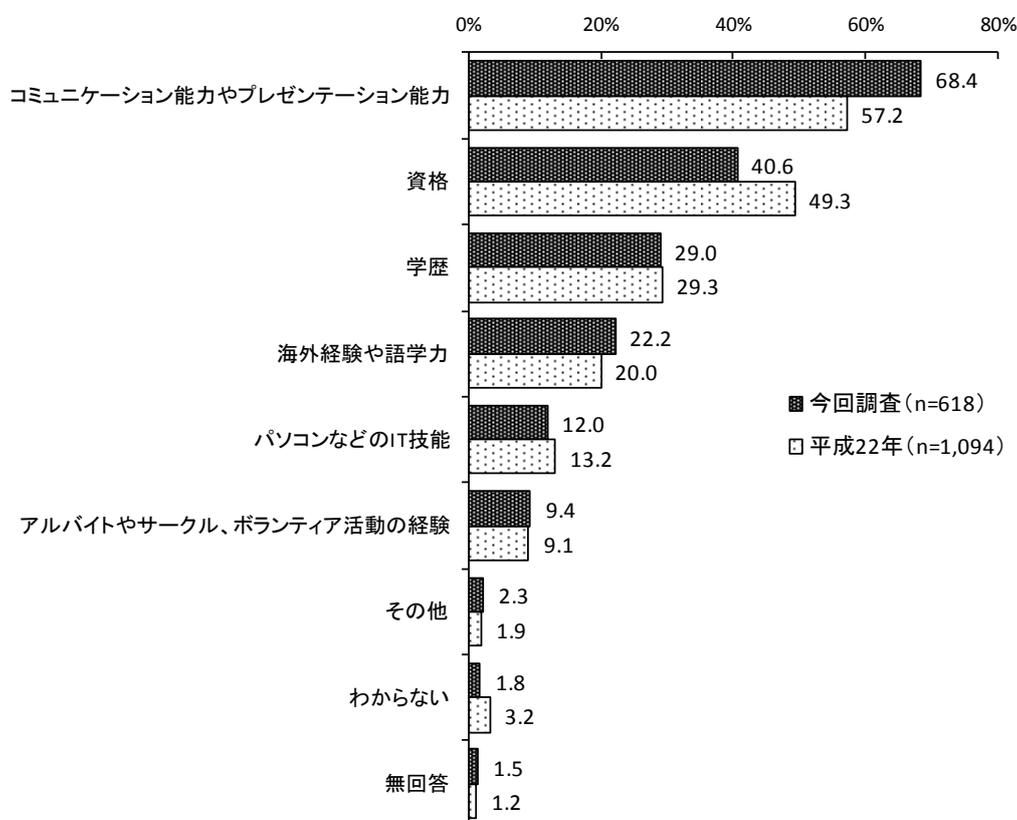


※の項目は、平成22年度調査から調査項目に加わったため、平成17年度調査は非調査

職場が楽しくない理由は、「仕事が忙しすぎるから」の割合が44.2%で最も高く、以下、「職場の方針などに不満があるから」(39.0%)、「給与や待遇に不満があるから」(32.5%)、「自分の望んだ仕事ではないから」(28.6%)、「職場の人間関係がうまくいかないから」(24.7%)、「仕事以外のものに興味があるから」(22.1%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「仕事が忙しすぎるから」が23.9ポイント増加し、「仕事が自分にあっていないから」が10.8ポイント減少している。

(8) 就職する上で有利になると思うこと

問17 就職する上で何を身に付けると有利になると思いますか。(〇は2つまで)



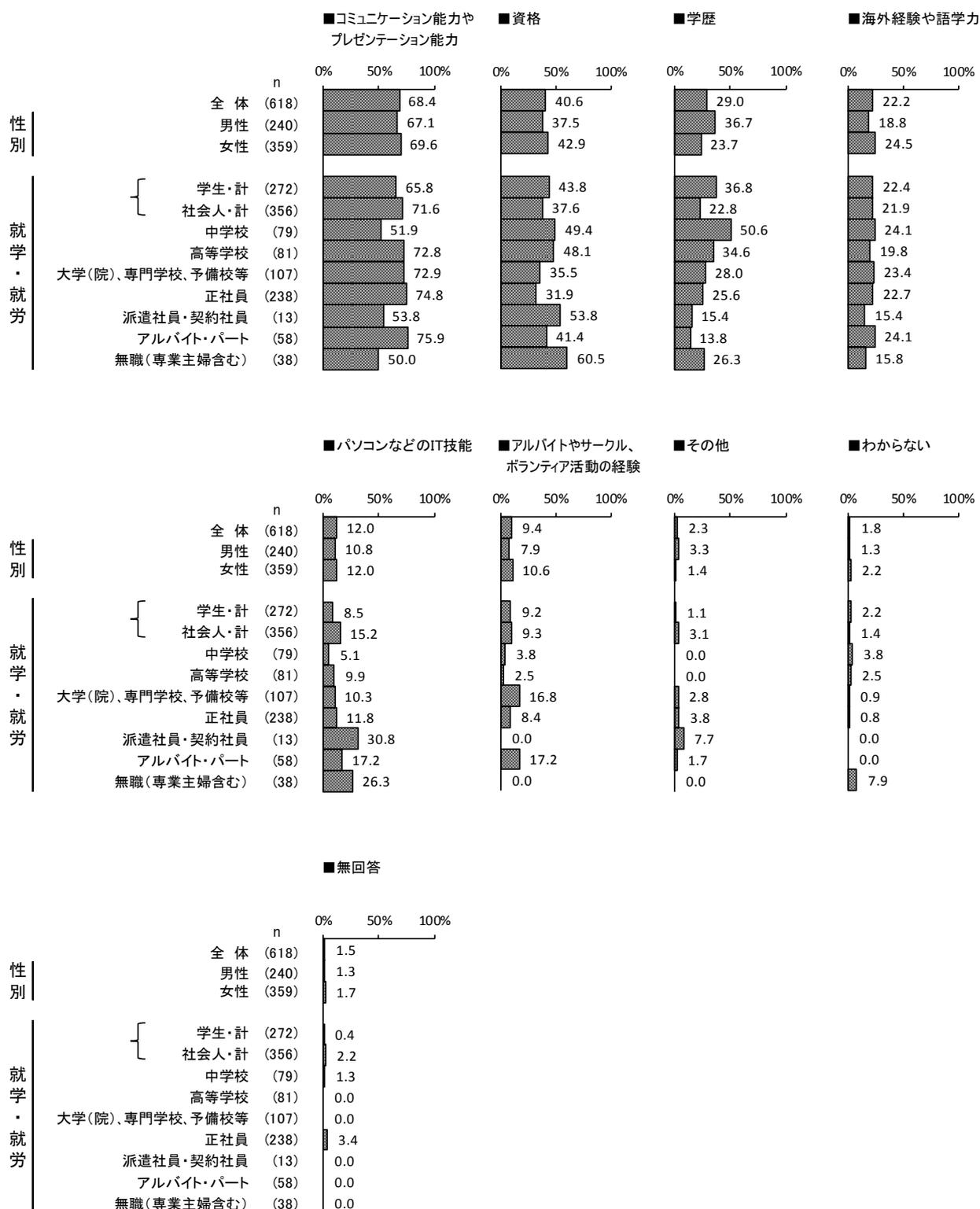
就職する上で有利になると思うことは、「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力」の割合が68.4%で最も高く、以下、「資格」(40.6%)、「学歴」(29.0%)、「海外経験や語学力」(22.2%)、「パソコンなどのIT技能」(12.0%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力」が11.2ポイント増加し、「資格」が8.7ポイント減少している。

性別でみると、【男性】は「学歴」の割合が36.7%と、【女性】よりも13.0ポイント高くなっている。

就学・就労別でみると、【アルバイト・パート】と【正社員】では「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力」の割合がそれぞれ75.9%、74.8%と、他の属性よりも高くなっている。また、【無職(専業主婦含む)】では「資格」の割合が60.5%と高く、【中学校】では「学歴」の割合が50.6%と高くなっている。

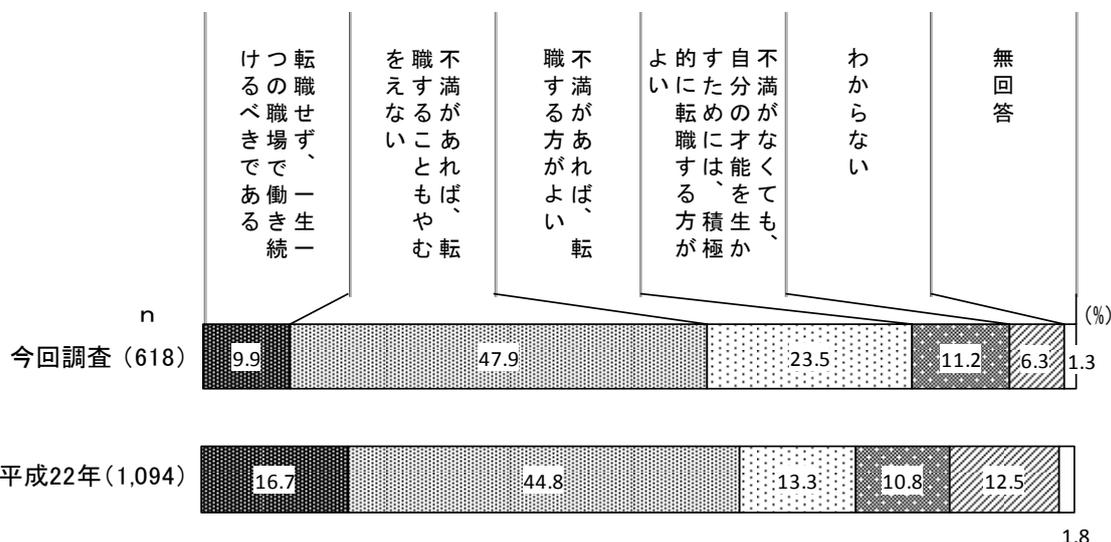
第2部 調査結果の詳細

○職場（性別／就学・就労別）



(9) 転職についての考え方

問18 転職について、この中から一番あなたの考えに近いものを選んでください。
(○は1つだけ)

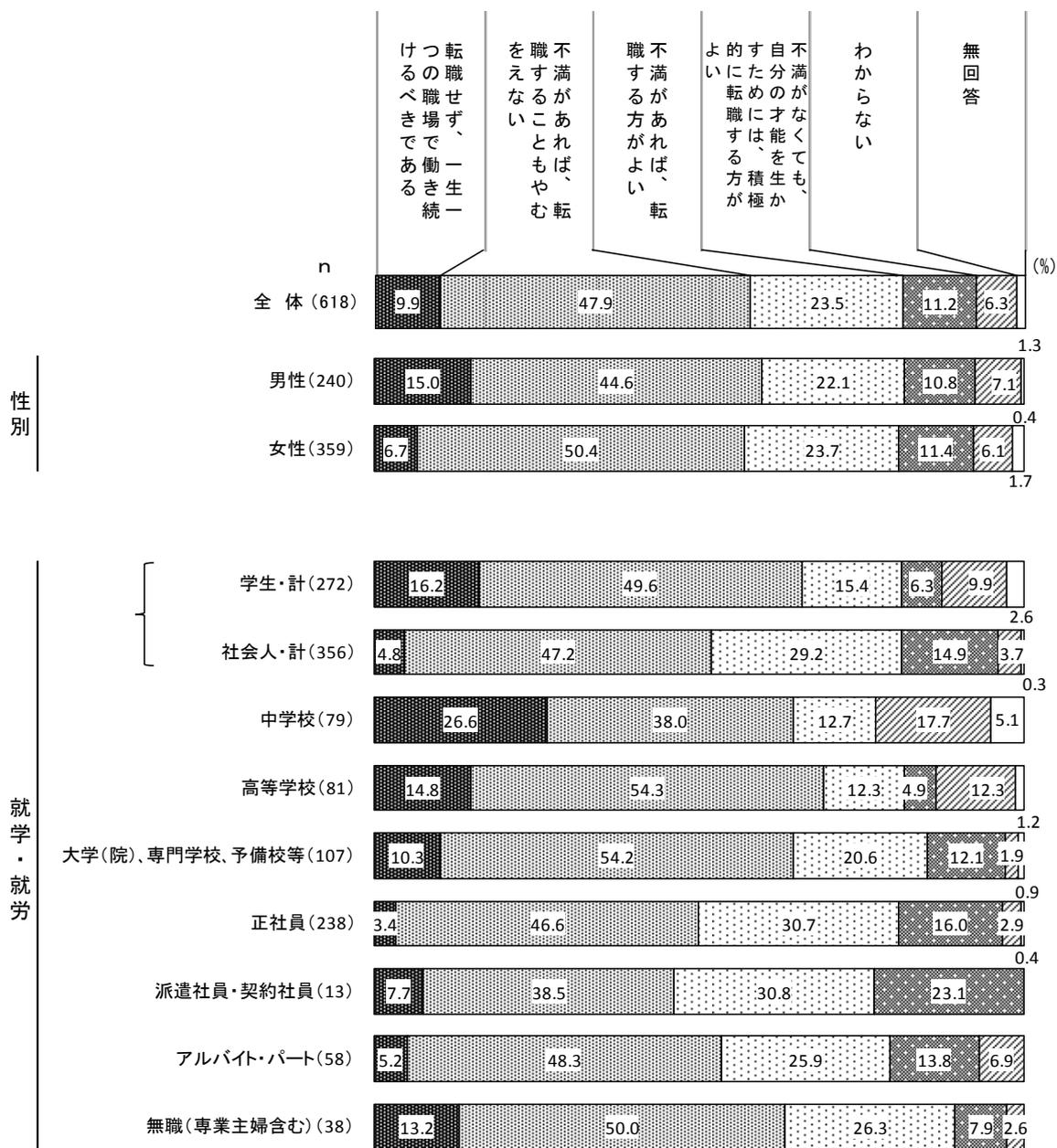


転職についての考え方は、「不満があれば、転職することもやむをえない」の割合が47.9%で最も高く、以下、「不満があれば、転職する方がよい」(23.5%)、「不満がなくても、自分の才能を生かすためには、積極的に転職する方がよい」(11.2%)、「転職せず、一生一つの職場で働き続けるべきである」(9.9%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「不満があれば、転職する方がよい」が10.2ポイント増加し、「転職せず、一生一つの職場で働き続けるべきである」が6.8ポイント減少している。

性別で見ると、【男性】では「転職せず、一生一つの職場で働き続けるべきである」の割合が15.0%と、【女性】よりも高くなっている。一方、【女性】では「不満があれば、転職することもやむをえない」の割合が50.4%と、【男性】よりも高くなっている。

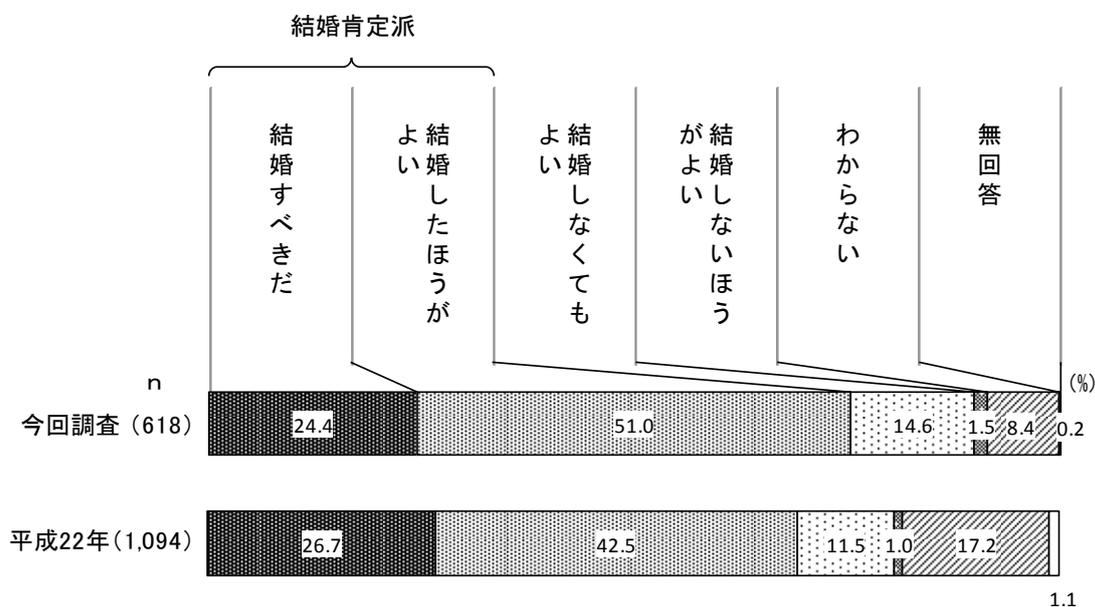
就学・就労別で見ると、どの属性も「不満があれば、転職することもやむをえない」の割合が最も高くなっている。また、「転職せず、一生一つの職場で働き続けるべきである」の割合は、【中学校】で26.6%と他の属性に比べて高く、【高等学校】(14.8%)、【大学(院)、専門学校、予備校等】(10.3%)と上級の学校になるほど、その割合は減少している。

○転職についての考え方（性別／就学・就労別）



(10) 結婚についての考え方

問19 あなたは、結婚についてどう考えますか。(〇は1つだけ)



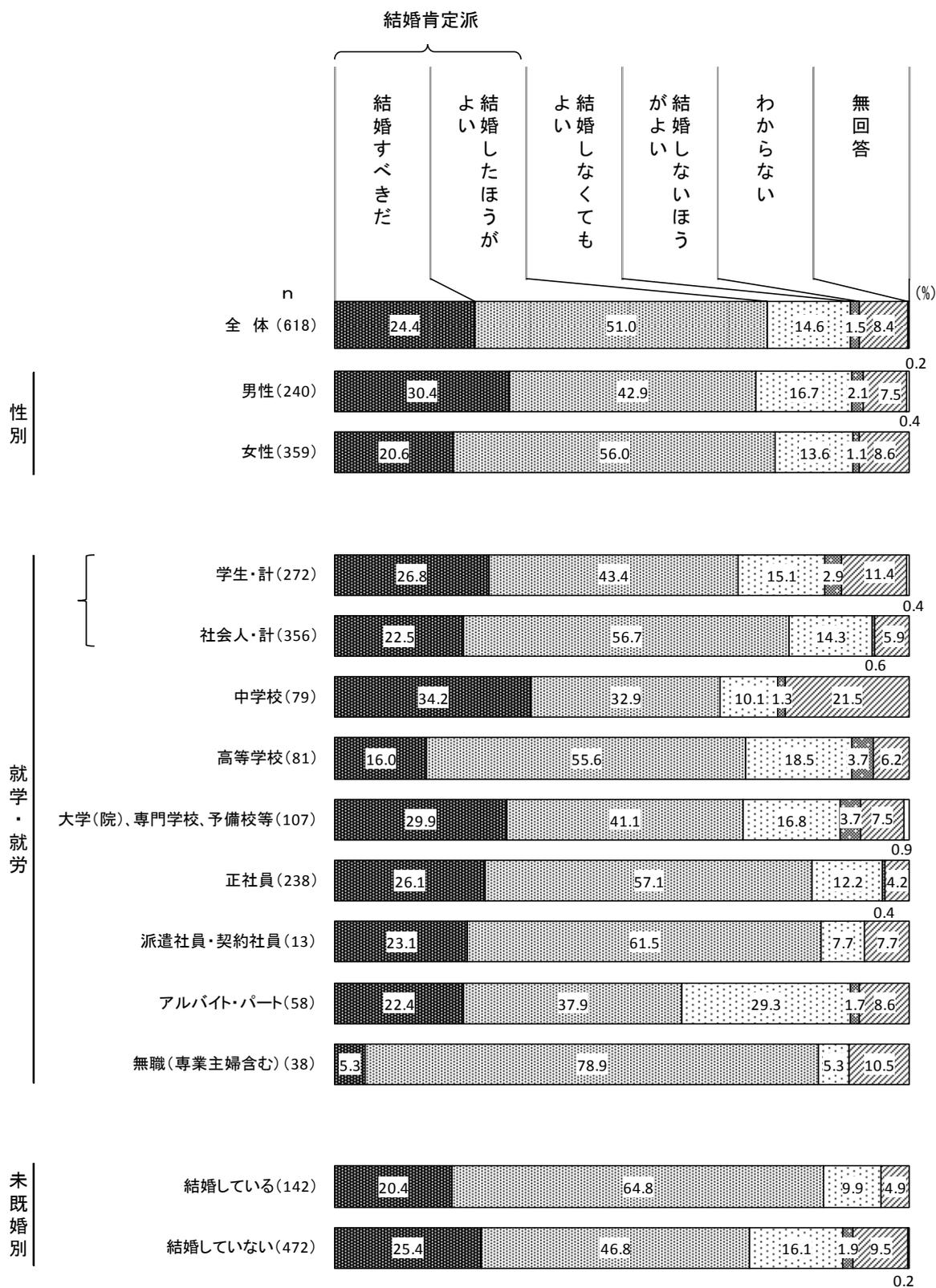
結婚についての考え方は、「結婚したほうがよい」の割合が51.0%で最も高く、「結婚すべきだ」(24.4%)を合わせると、『結婚肯定派』の割合は75.4%となっている。平成22年度調査と比較すると、「結婚したほうがよい」が8.5ポイント増加している。

性別でみると、【男性】では「結婚すべきだ」の割合が30.4%と、【女性】よりも高く、一方、【女性】では「結婚したほうがよい」の割合が56.0%と、【男性】よりも高くなっている。

就学・就労別でみると、【中学校】では「結婚すべきだ」の割合が34.2%と、他の属性と比べて最も高くなっている。また、【アルバイト・パート】では「結婚しなくてもよい」の割合が29.3%、【無職（専業主婦含む）】では「結婚したほうがよい」の割合が78.9%と、他の属性と比べて高くなっている。

未婚別でみると、【結婚している】ほうが『結婚肯定派』の割合が85.2%と、【結婚していない】(72.2%)に比べて13.0ポイント高くなっている。

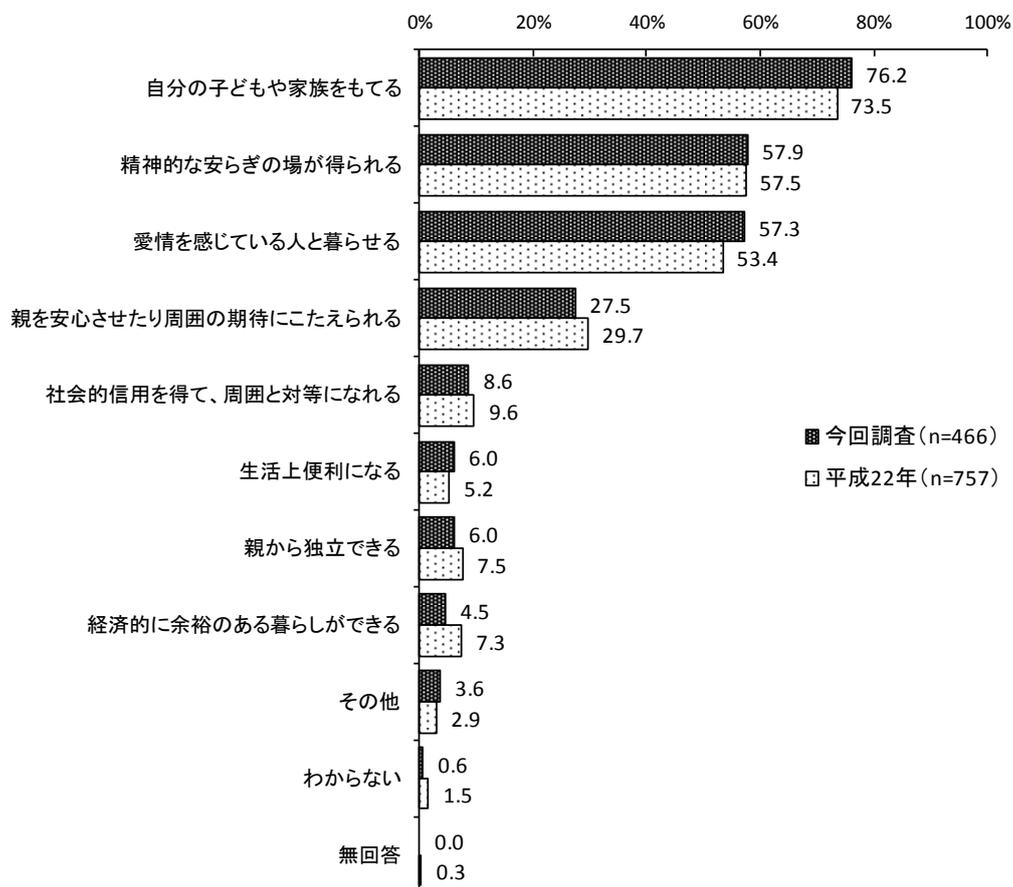
○結婚についての考え方（性別／就学・就労別／未既婚別）



(11) 結婚したほうがよい理由

【問19で「結婚すべきだ」「結婚したほうがよい」と回答した方への質問】

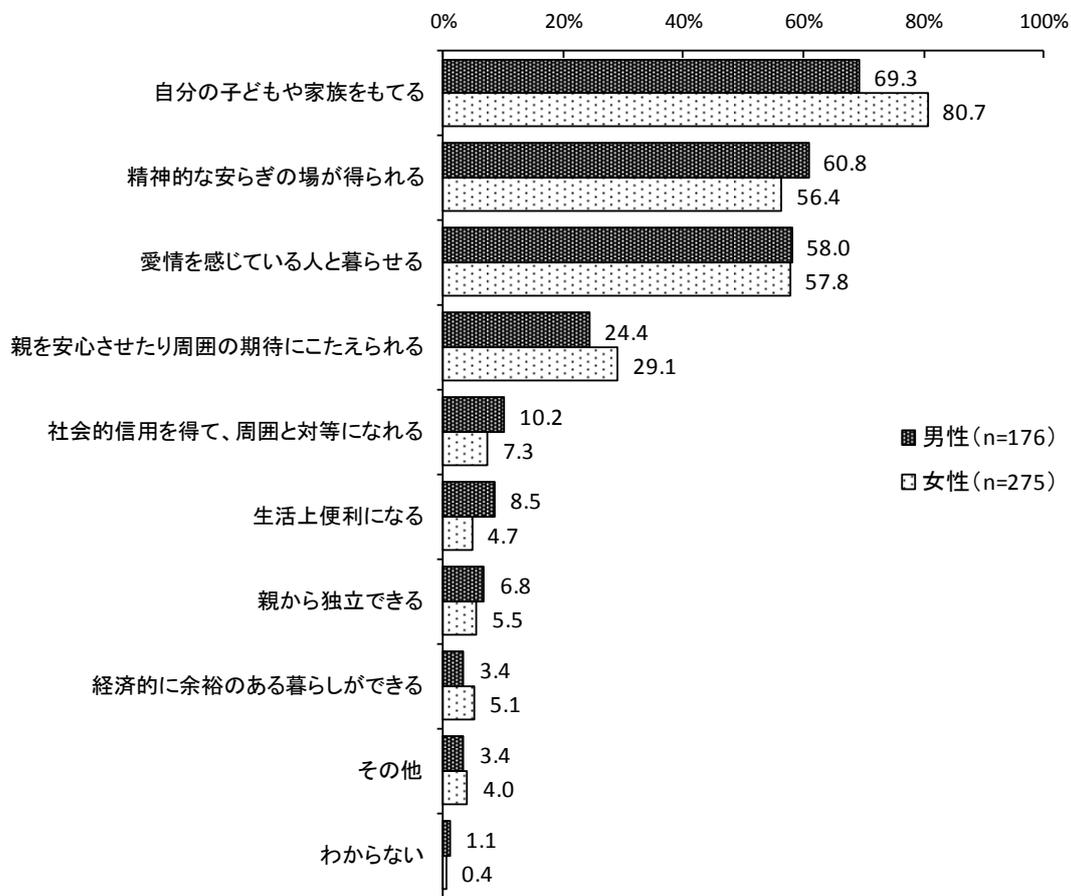
問19① その主な理由は何ですか。(〇は3つまで)



結婚したほうがよい理由は、「自分の子どもや家族をもてる」の割合が76.2%で最も高く、以下、「精神的な安らぎの場が得られる」(57.9%)、「愛情を感じている人と暮らせる」(57.3%)、「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」(27.5%)、「社会的信用を得て、周囲と対等になれる」(8.6%)の順となっている。なお、平成22年度調査と比較しても、大きな差異はみられない。

性別で見ると、男女ともに「自分の子どもや家族をもてる」の割合が最も高くなっており、特に【女性】では80.7%と、【男性】(69.3%)と比べて11.4ポイント高くなっている。

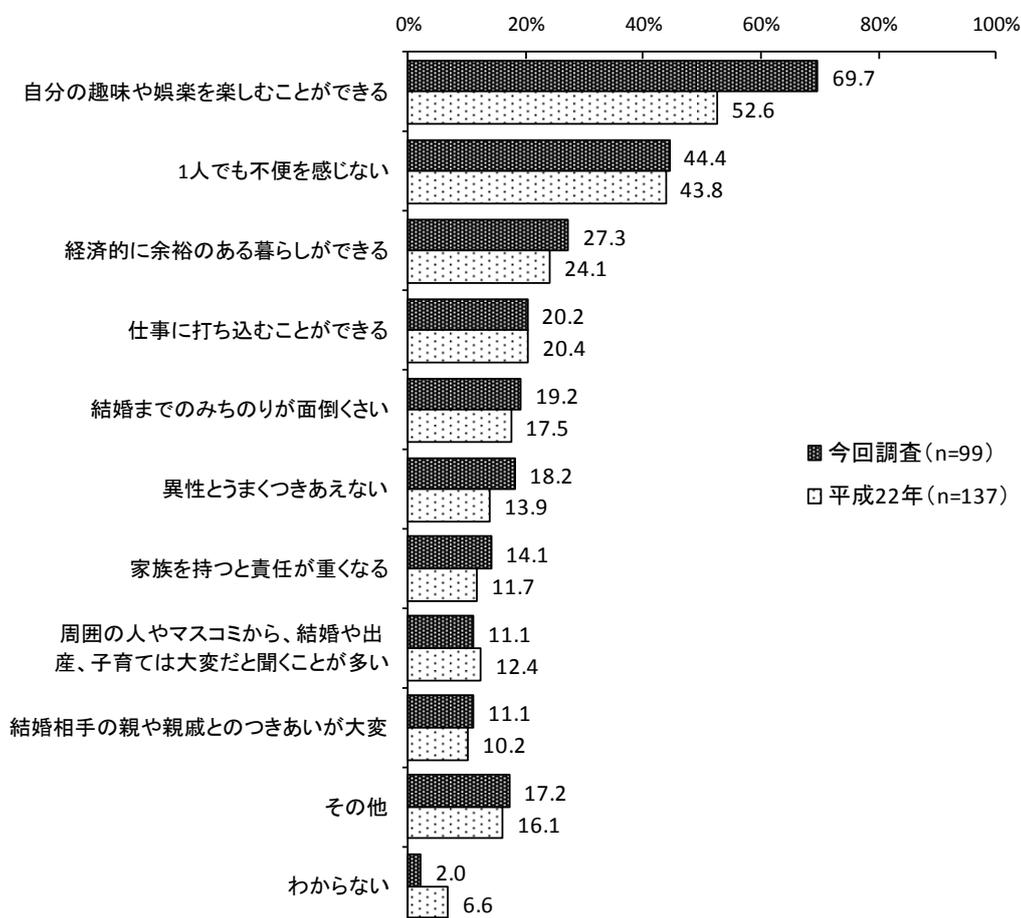
○結婚したほうがよい理由（性別）



(12) 結婚しなくてもよい理由

【問19で「結婚しなくてもよい」「結婚しないほうがよい」と回答した方への質問】

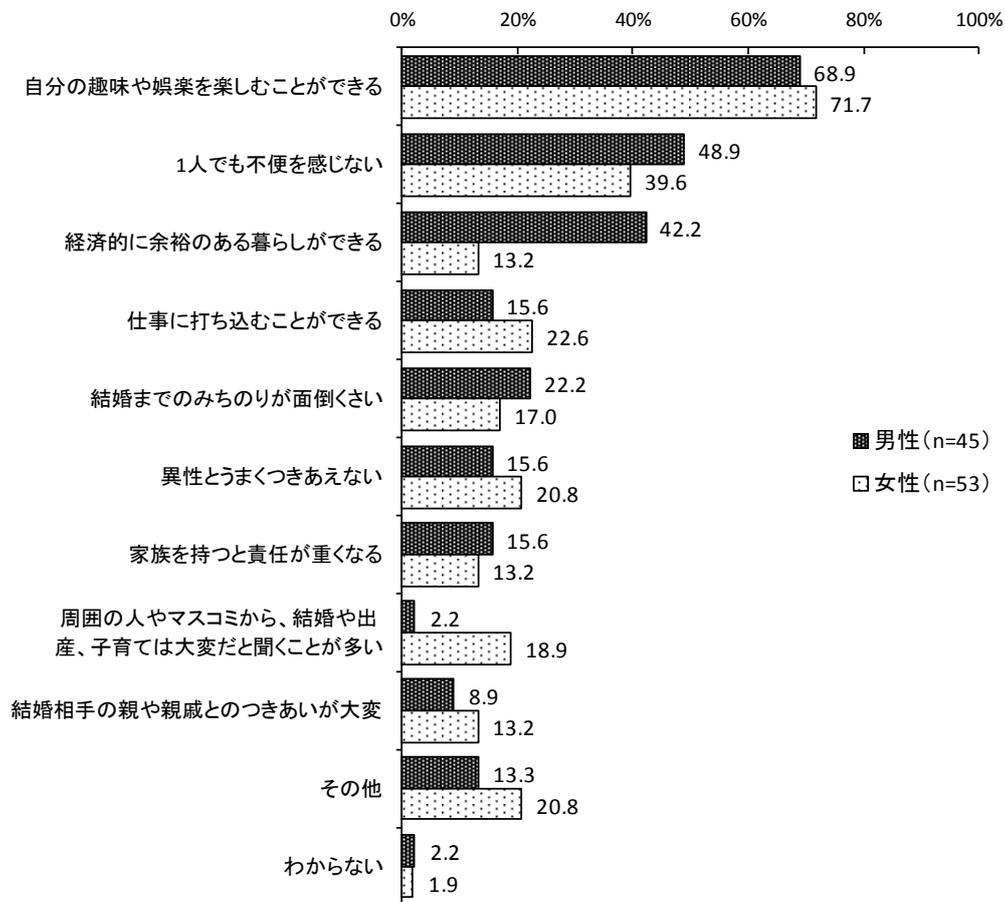
問19② その主な理由は何ですか。(〇は3つまで)



結婚しなくてもよい理由は、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」の割合が69.7%で最も高く、以下、「1人でも不便を感じない」(44.4%)、「経済的に余裕のある暮らしができる」(27.3%)、「仕事に打ち込むことができる」(20.2%)、「結婚までのみちのりが面倒くさい」(19.2%)、「異性とうまくつきあえない」(18.2%)、「家族を持つと責任が重くなる」(14.1%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」が17.1ポイント増加している。

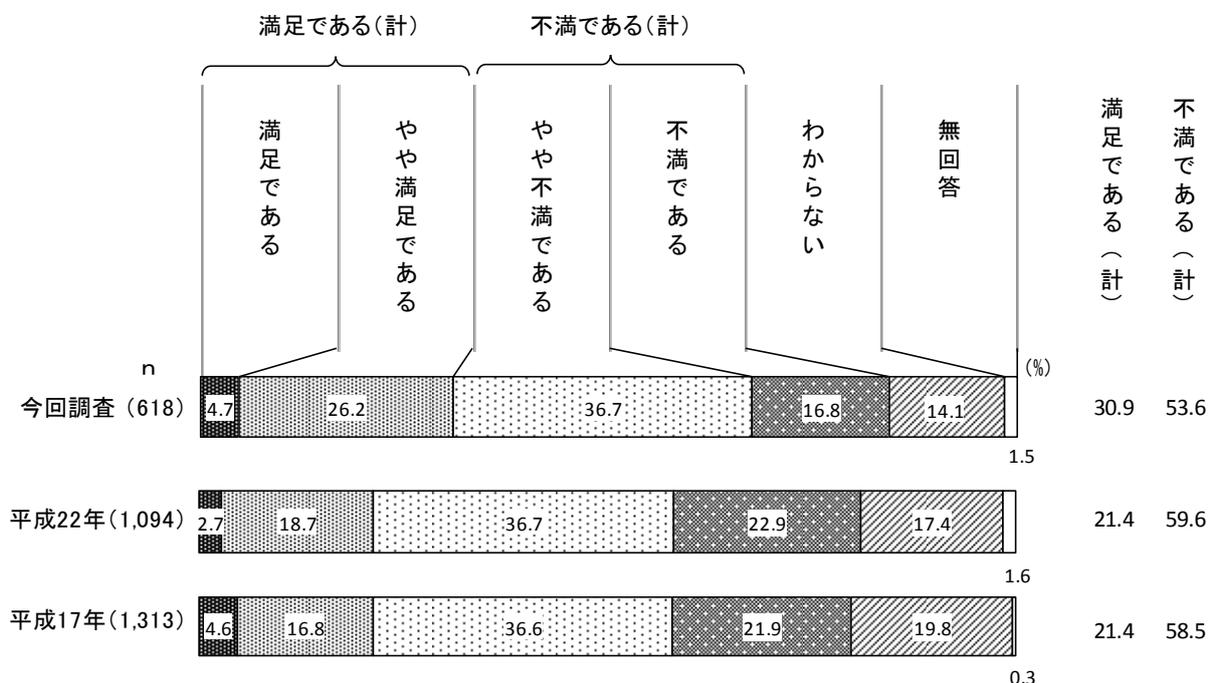
性別でみると、男女共に「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」の割合が最も高くなっている一方、【男性】では「経済的に余裕のある暮らしができる」の割合が42.2%と、【女性】(13.2%)と比べて29.0ポイント高く、一方、【女性】では「周囲の人やマスコミから、結婚や出産、子育ては大変だと聞くことが多い」の割合が18.9%と、【男性】(2.2%)と比べて16.7ポイント高くなっている。

○結婚しなくてもよい理由（性別）



(13) 社会に対する満足度

問20 あなたは、現在の日本社会全般に満足していますか。(〇は1つだけ)

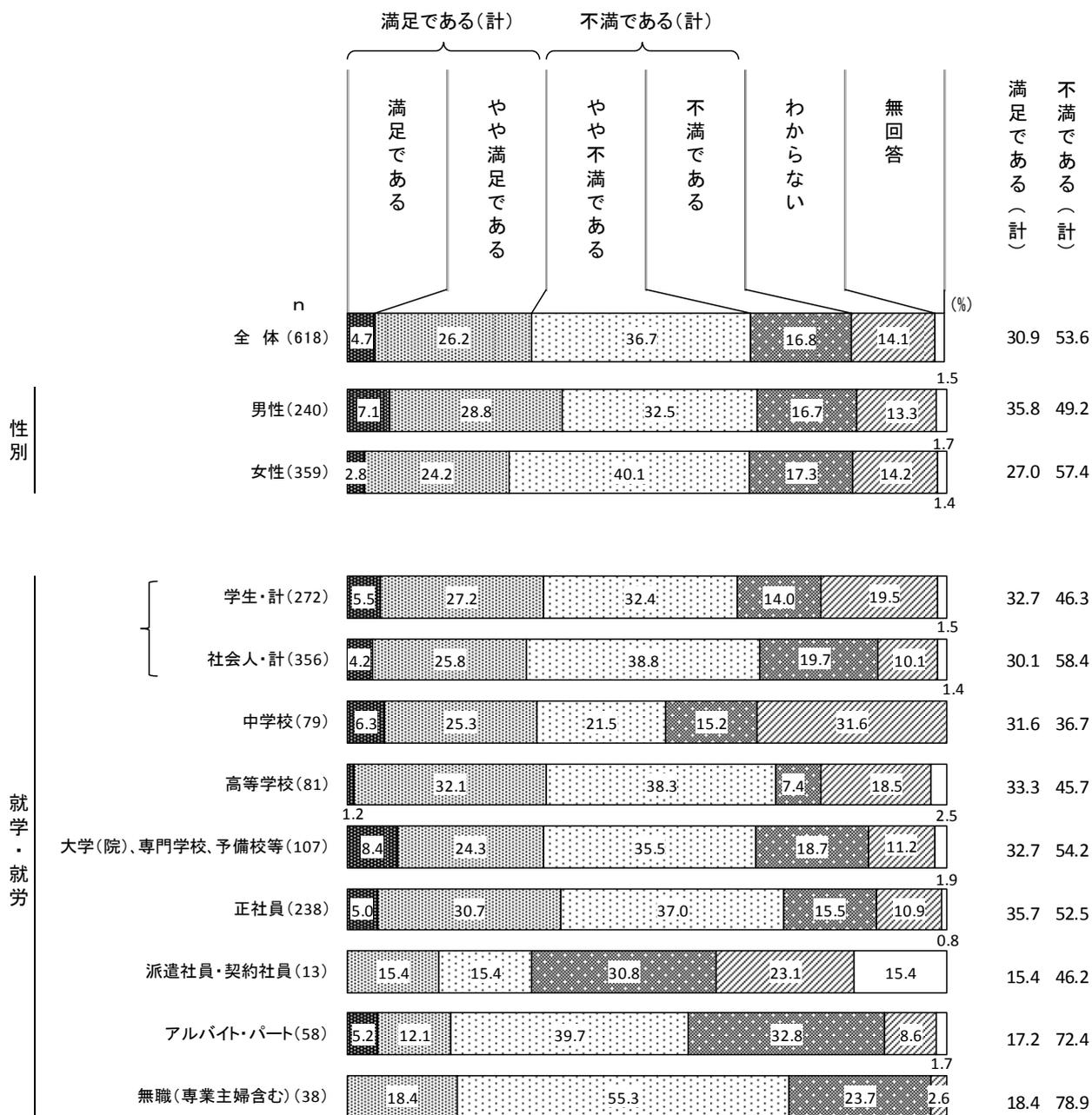


社会に対する満足度は、「やや不満である」の割合が36.7%で最も高く、「不満である」(16.8%)を合わせた『不満である(計)』は53.6%となっている。一方、「満足である」(4.7%)と「やや満足である」(26.2%)を合わせた『満足である(計)』は30.9%となっている。平成22年度調査と比較すると、「やや満足である」が7.5ポイント増加し、「不満である」が6.1ポイント減少している。

性別で見ると、男女ともに「やや不満である」が最も高くなっており、特に【女性】では40.1%と、【男性】(32.5%)と比べて7.6ポイント高くなっている。

就学・就労別で見ると、『不満である(計)』の割合は、学生の場合、【中学校】(36.7%)、【高等学校】(45.7%)、【大学(院)、専門学校、予備校等】(54.2%)と、上級の学校になるにつれて増加している。また、【無職(専業主婦含む)】では『不満である(計)』の割合が78.9%、【アルバイト・パート】では『不満である(計)』の割合が72.4%と、いずれも高くなっている。

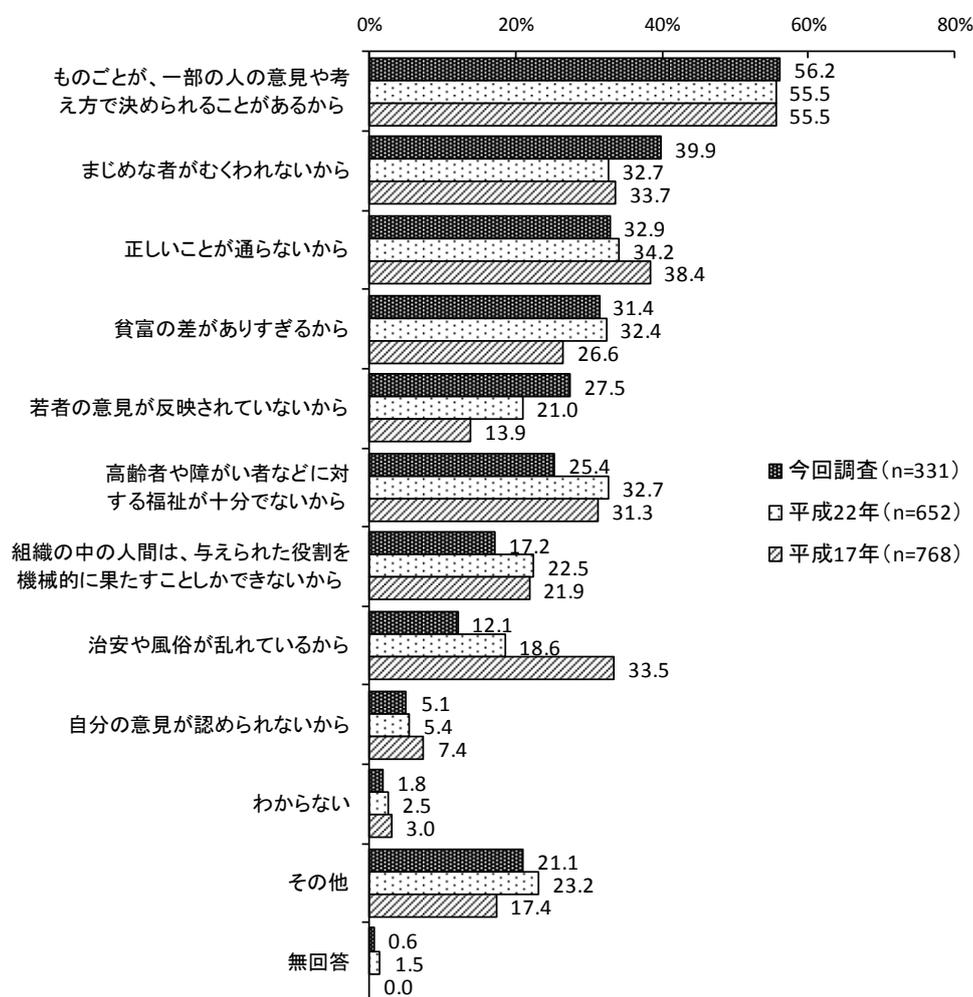
○社会に対する満足度（性別／就学・就労別）



(14) 社会に対する不満の理由

【問20で「やや不満である」「不満である」と回答した方への質問】

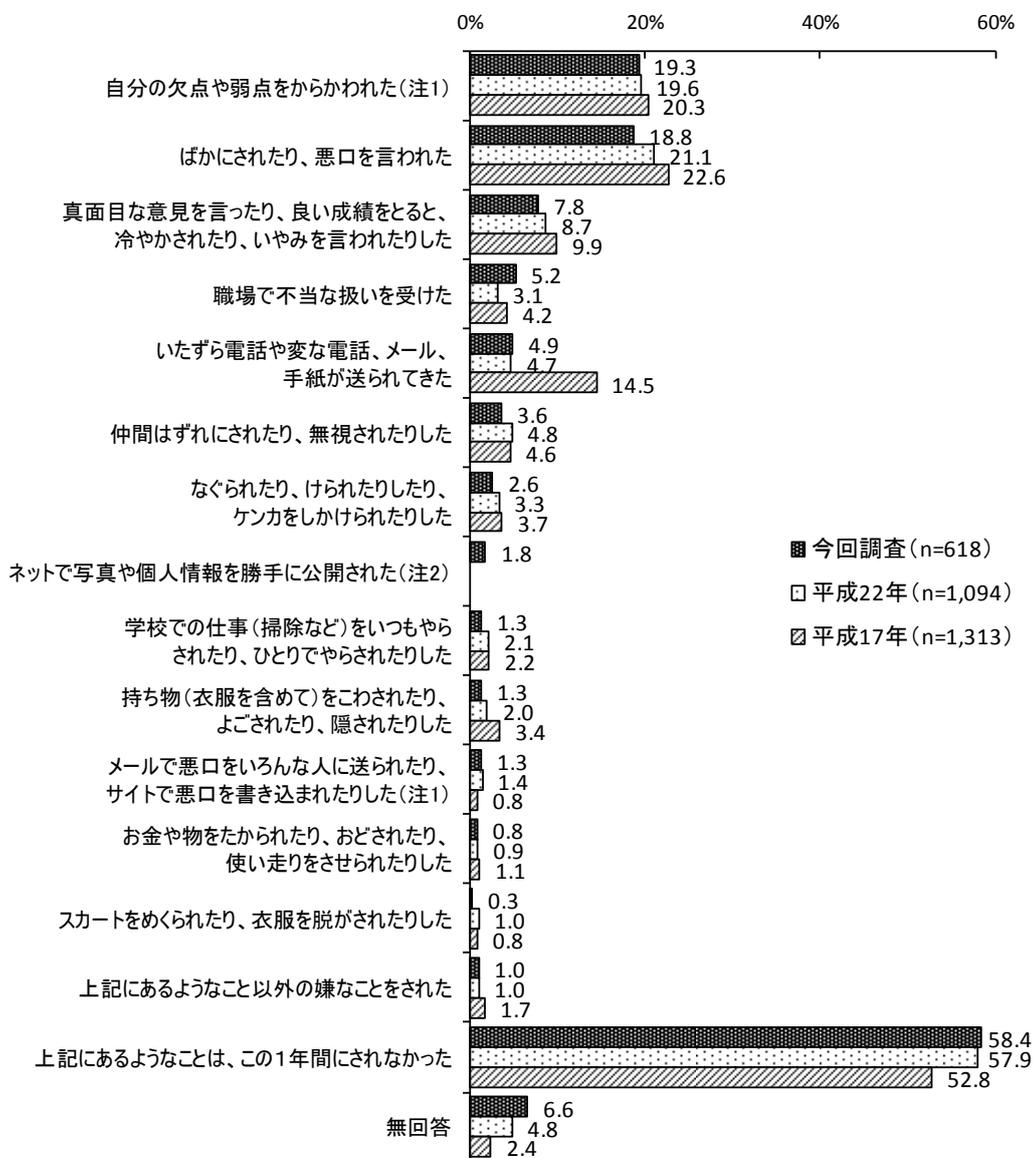
問20① その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)



社会に対する不満の理由は、「ものごとが、一部の人の意見や考え方で決められることがあるから」の割合が56.2%で最も高く、以下、「まじめな者がむくわれないから」(39.9%)、「正しいことが通らないから」(32.9%)、「貧富の差がありすぎるから」(31.4%)、「若者の意見が反映されていないから」(27.5%)、「高齢者や障がい者などに対する福祉が十分でないから」(25.4%)、「組織の中の人間は、与えられた役割を機械的に果たすことしかできないから」(17.2%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「まじめな者がむくわれないから」が7.2ポイント、「若者の意見が反映されていないから」が6.5ポイント増加し、「高齢者や障がい者などに対する福祉が十分でないから」が7.3ポイント減少している。

(15) この1年間にされた嫌なこと

問21 あなたは、この1年間に次のようなことをされた経験がありますか。
(○はいくつでも)



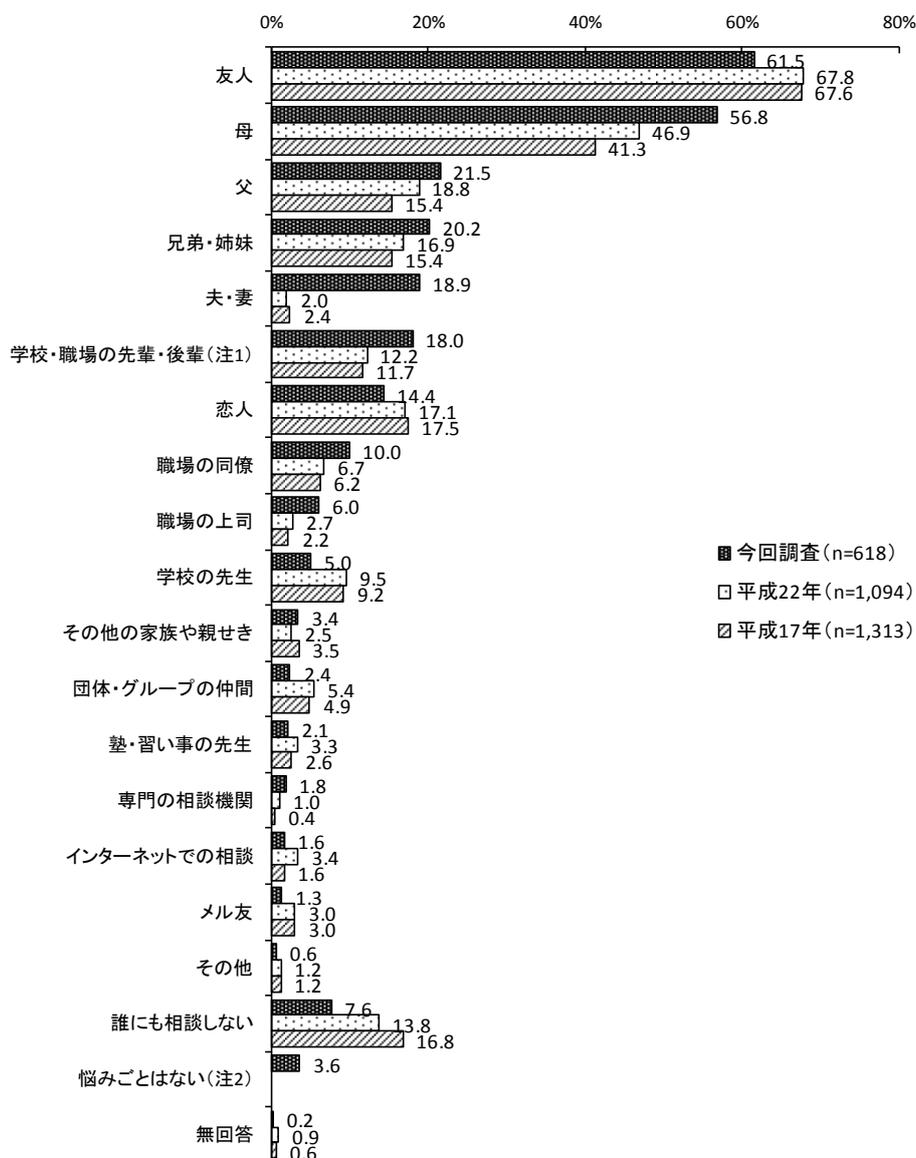
(注1) の項目は、平成17年度調査では「自分の欠点をからかわれた」、「メールで悪口をいろんな人に送られた」

(注2) の項目は、今回調査から調査項目に加わったため、平成22年度調査、平成17年度調査は非調査

この1年間にされた嫌なことの内容は、「自分の欠点や弱点をからかわれた」の割合が19.3%で最も高く、以下、「ばかにされたり、悪口をいわれた」(18.8%)、「真面目な意見を言ったり、良い成績をとると、冷やかされたり、いやみを言われたりした」(7.8%)、「職場で不当な扱いを受けた」(5.2%)、「いたずら電話や変な電話、メール、手紙が送られてきた」(4.9%)の順となっている。また、「上記にあるようなことは、この1年間にされなかった」の割合は58.4%となっている。なお、平成22年度調査と比較しても、大きな差異はみられなかった。

(16) 悩みごとの相談相手

問22 あなたが悩みごとを相談するのは誰ですか。(〇はいくつでも)



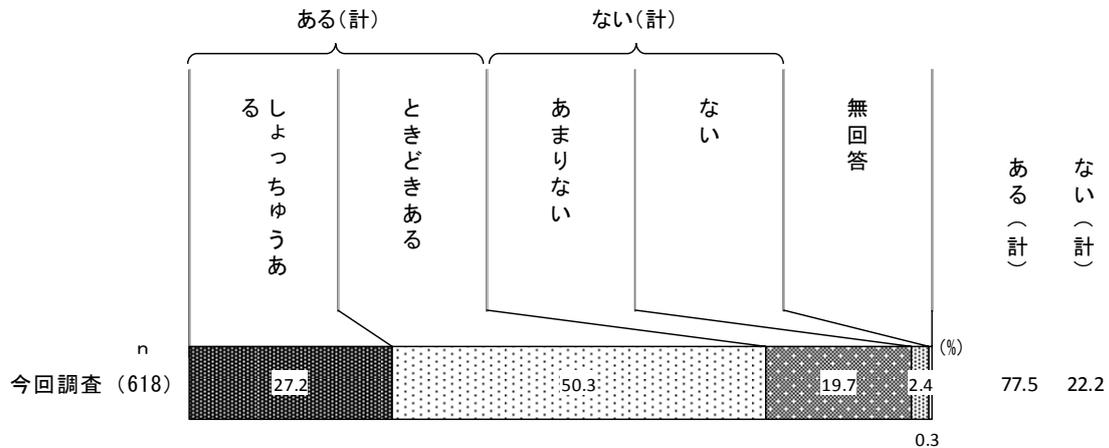
(注1) の項目は、平成17年度調査では「学校や職場の先輩」

(注2) の項目は、今回調査から調査項目に加わったため、平成22年度調査、平成17年度調査は非調査

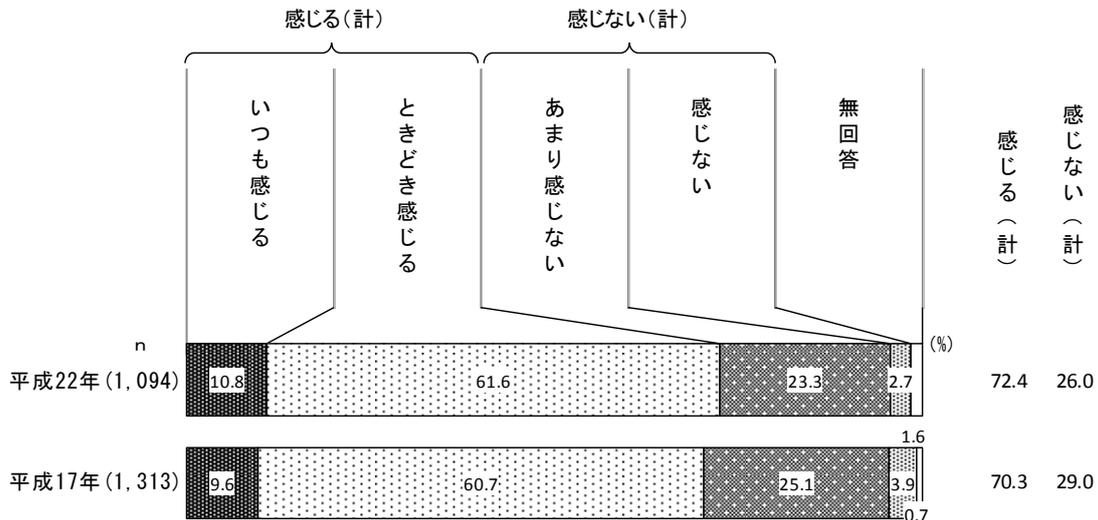
悩みごとの相談相手は、「友人」の割合が61.5%で最も高く、以下、「母」(56.8%)、「父」(21.5%)、「兄弟・姉妹」(20.2%)、「夫・妻」(18.9%)、「学校・職場の先輩・後輩」(18.0%)、「恋人」(14.4%)、「職場の同僚」(10.0%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「夫・妻」が16.9ポイント、「母」が9.9ポイント、「学校・職場の先輩・後輩」が5.8ポイント増加している。一方、「友人」は6.3ポイント、「誰にも相談しない」は6.2ポイント減少している。なお、「夫・妻」が増加した理由として、調査対象者の年齢が今回から30歳に引き上げられたことから、既婚者の割合が前回2.8%だったものが、今回23.0%まで増加したことによるものと考えられる。

(17) 「いらいらする」「むかつく」と感じること

問23 あなたは、「いらいらする」「むかつく」ことはありますか。(〇は1つだけ)



【参考】



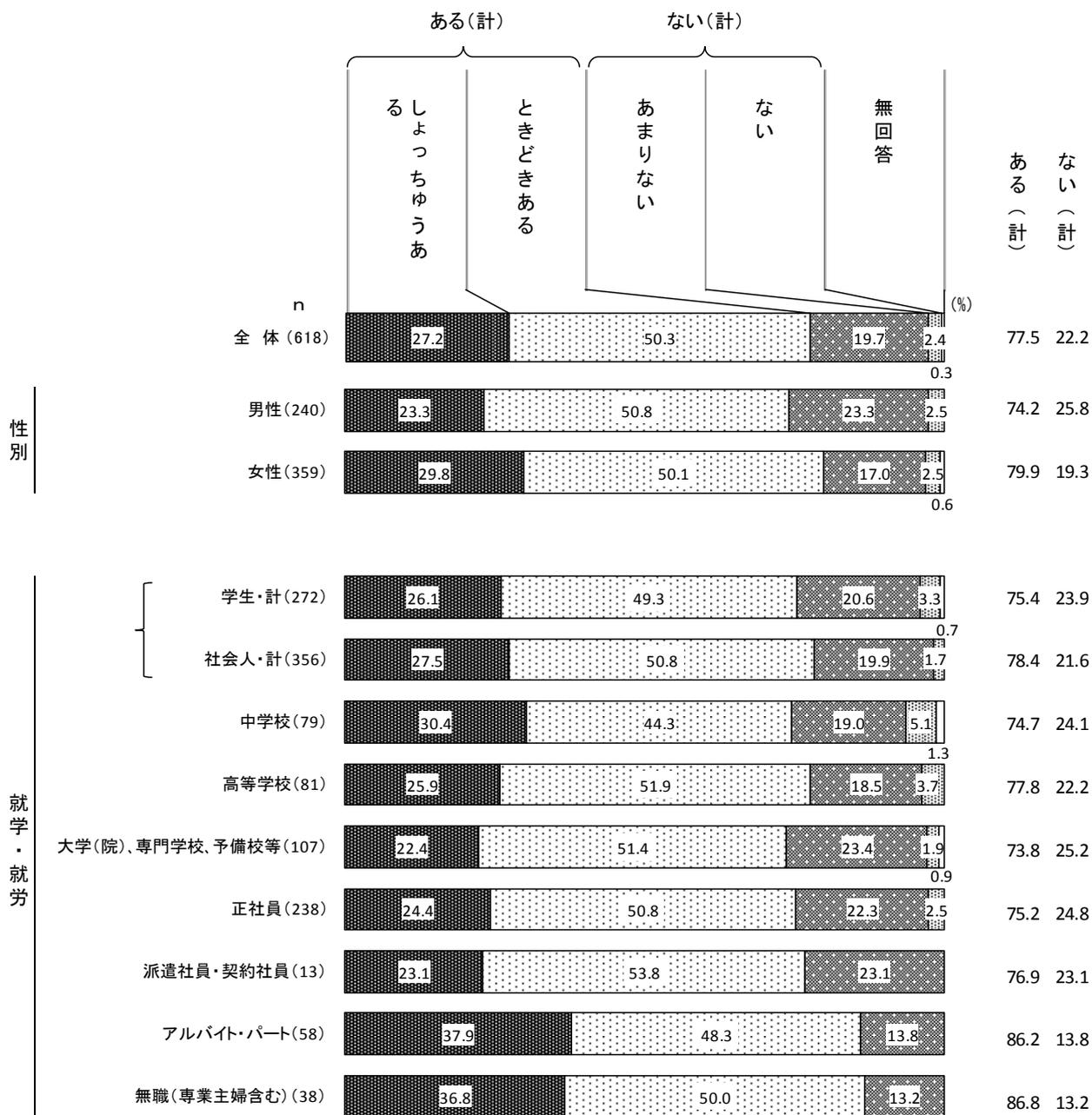
※平成22年度調査、平成17年度調査では、質問は『「むかつく」「きれる」と感じることはありますか。』、回答選択肢は「いつも感じる」「ときどき感じる」「あまり感じない」「感じない」で聴取

「いらいらする」「むかつく」と感じることは、「ときどきある」の割合が50.3%で最も高くなっており、「しょっちゅうある」(27.2%)を合わせた『ある(計)』は77.5%となっている。一方、「ない」(2.4%)と「あまりない」(19.7%)を合わせた『ない(計)』は22.2%となっている。

性別で見ると、【女性】では「しょっちゅうある」が29.8%と、【男性】(23.3%)と比べて高くなっている。

就学・就労別では、【アルバイト・パート】では「しょっちゅうある」が37.9%、【無職(専業主婦含む)】では「しょっちゅうある」が36.8%と、他と比べて高くなっている。

○「いらいらする」「むかつく」と感じる事（性別／就学・就労別）

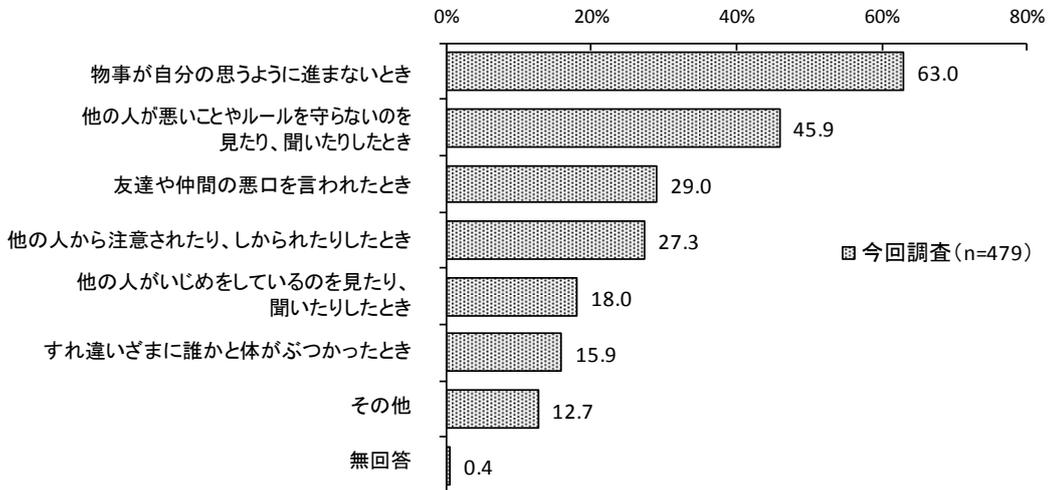


(18) 「いらいらする」「むかつく」と感じる時

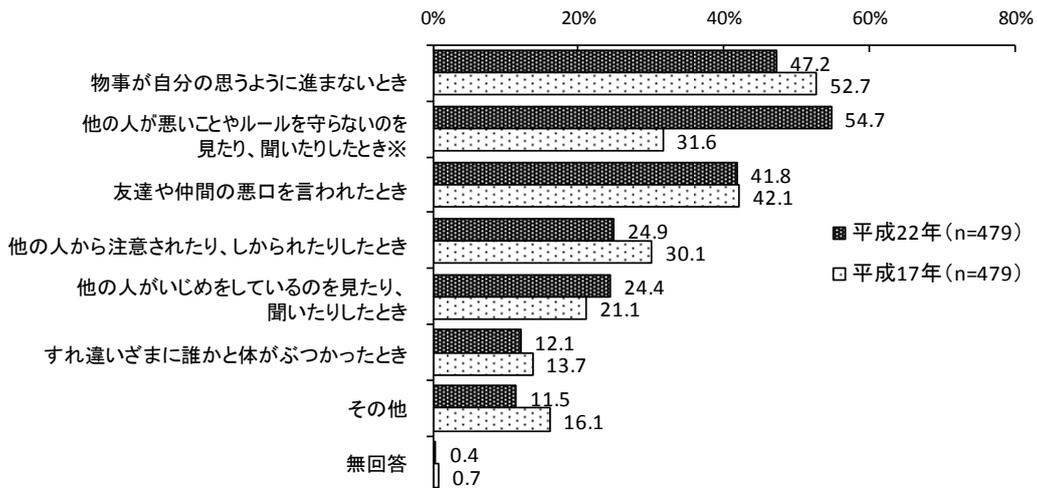
【問23で「しょっちゅうある」「ときどきある」と回答した方への質問】

問23① あなたは、どんなときに「いらいらする」「むかつく」と感じますか。

(○はいくつでも)



【参考】

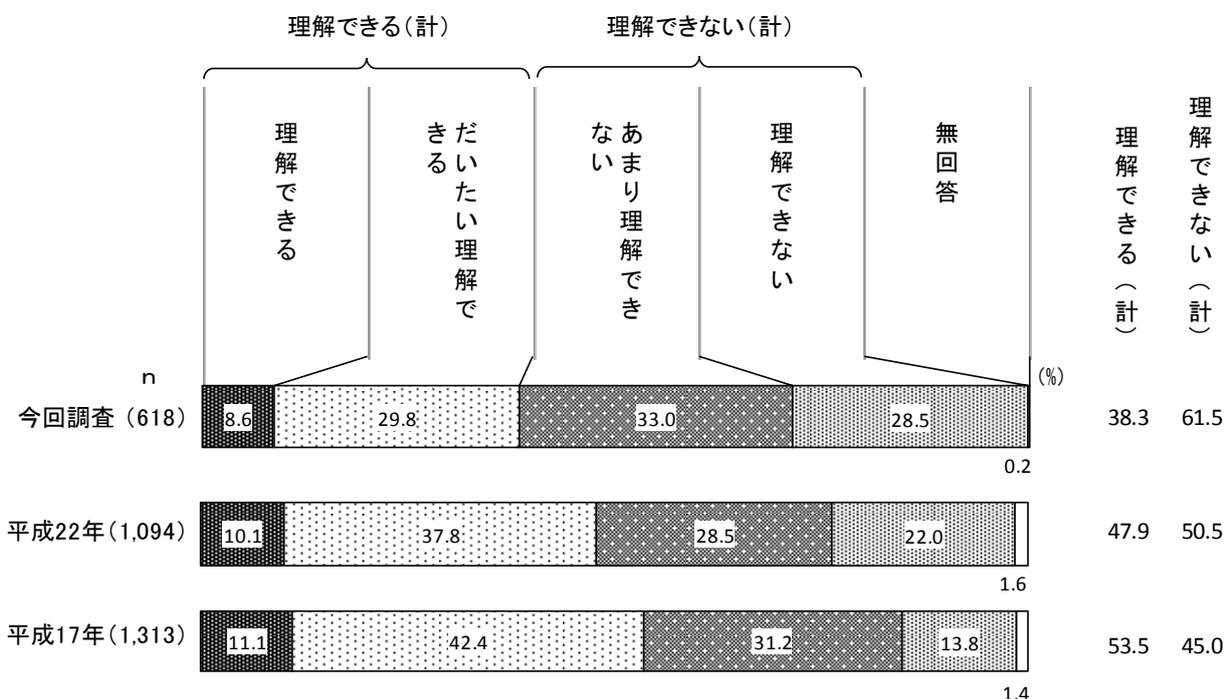


※印の項目は、平成17年度調査では「他の人が禁止行為や違反行為をしているのを見たり、聞いたりしたとき」

「いらいらする」「むかつく」と感じる時は、「物事が自分の思うように進まないとき」の割合が63.0%で最も高く、以下、「他の人が悪いことやルールを守らないのを見たり、聞いたりしたとき」(45.9%)、「友達や仲間の悪口を言われたとき」(29.0%)、「他の人から注意されたり、しかられたりしたとき」(27.3%)、「他の人がいじめをしているのを見たり、聞いたりしたとき」(18.0%)、「すれ違いざまに誰かと体がぶつかったとき」(15.9%)の順となっている。

(19) 非行する人への理解度

問 24 あなたは、非行する人の気持ちが理解できますか。(○は1つだけ)

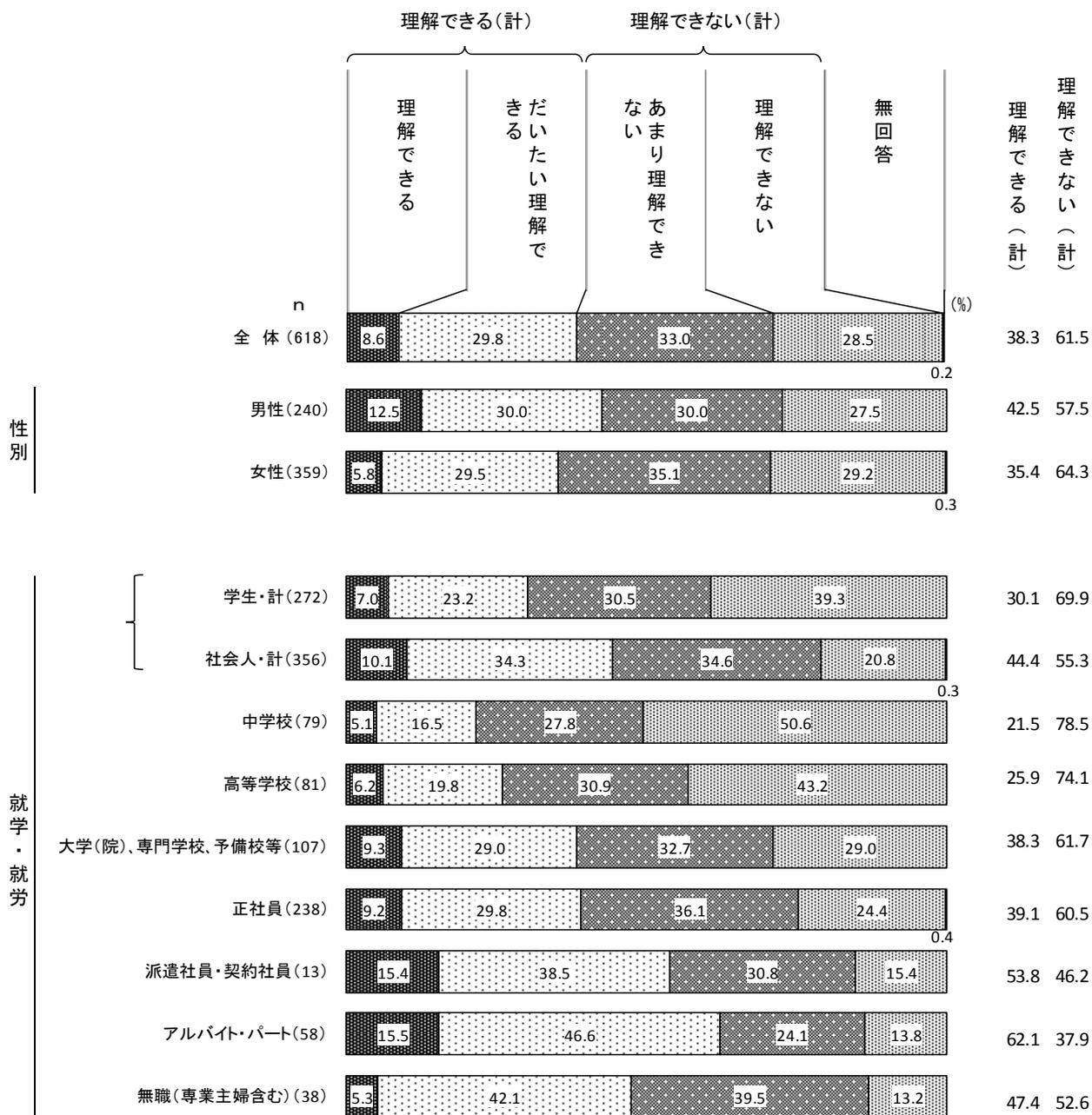


非行する人への理解は、「あまり理解できない」の割合が33.0%で最も高くなっており、「理解できない」(28.5%)を合わせた『理解できない(計)』は61.5%となっている。一方、「理解できる」(8.6%)と「だいたい理解できる」(29.8%)を合わせた『理解できる(計)』は38.3%となっている。平成22年度調査と比較すると、『理解できる(計)』が9.6ポイント減少し、『理解できない(計)』が11.0ポイント増加している。

性別で見ると、【男性】では『理解できる(計)』が42.5%と、【女性】(35.4%)と比べて高く、【女性】では『理解できない(計)』が64.3%と、【男性】(57.5%)と比べて高くなっている。

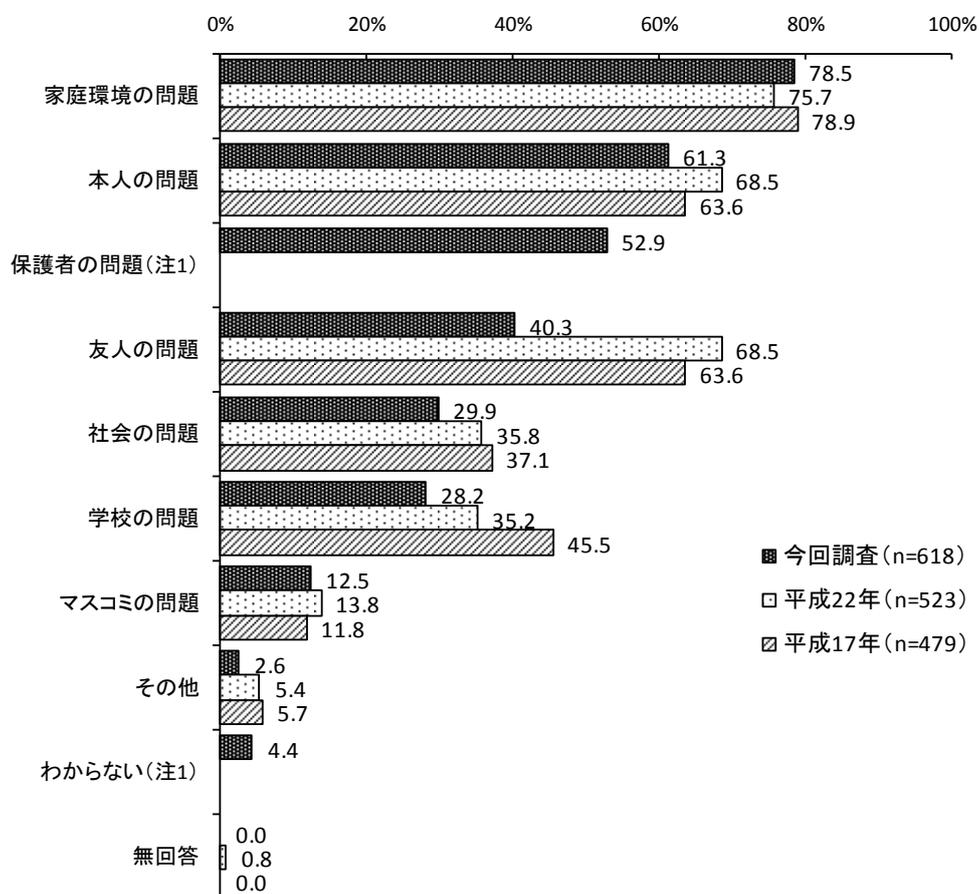
就学・就労別で見ると、学生の場合、『理解できる(計)』の割合が、【中学校】(21.5%)、【高等学校】(25.9%)、【大学(院)、専門学校、予備校等】(38.3%)と、上級の学校になるにつれて増加している。社会人の場合、【アルバイト・パート】で『理解できる(計)』が62.1%と、他の属性と比べて最も高くなっている。

○非行する人への理解（性別／就学・就労別）



(20) 非行の原因

問 25 非行の原因は何だと感じますか。(〇はいくつでも)



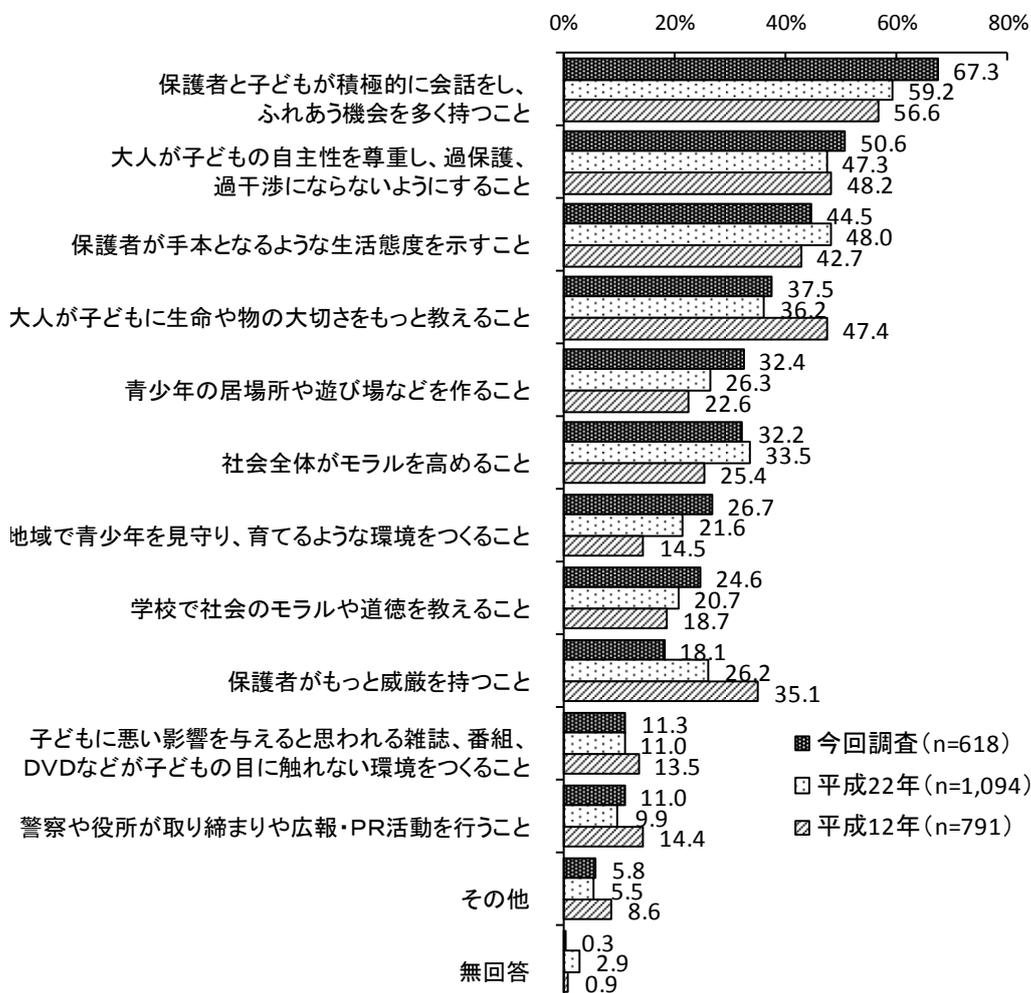
(注1) の項目は、今回調査から調査項目に加わったため、平成22年度調査、平成17年度調査は非調査

※平成22年度調査、平成17年度調査は、「理解できる」「だいたい理解できる」と回答した方だけに聴取しているため参考値とする

非行の原因は、「家庭環境の問題」の割合が78.5%と最も高く、以下、「本人の問題」(61.3%)、「保護者の問題」(52.9%)、「友人の問題」(40.3%)、「社会の問題」(29.9%)、「学校の問題」(28.2%)、「マスコミの問題」(12.5%)の順となっている。

(21) 青少年の健全育成に大切だと思うこと

問26 あなたは、青少年の健やかな成長や非行防止に、何が大切だと思いますか。
(〇はいくつでも)



青少年の健全育成に大切だと思うことは、「保護者と子どもが積極的に会話をし、ふれあう機会を多く持つこと」の割合が67.3%で最も高く、以下、「大人が子どもの自主性を尊重し、過保護、過干渉にならないようにすること」(50.6%)、「保護者が手本となるような生活態度を示すこと」(44.5%)、「大人が子どもに生命や物の大切さをもっと教えること」(37.5%)、「青少年の居場所や遊び場などを作ること」(32.4%)、「社会全体がモラルを高めること」(32.2%)、「地域で青少年を見守り、育てるような環境をつくること」(26.7%)、「学校で社会のモラルや道徳を教えること」(24.6%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「保護者と子どもが積極的に会話をし、ふれあう機会を多く持つこと」が8.1ポイント、「青少年の居場所や遊び場などを作ること」が6.1ポイント増加し、「保護者がもっと威厳を持つこと」が8.1ポイント減少している。